

## 和仏法律学校講義録

吾孫子, 勝 / 下村, 宏

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-27

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

65

(発行年 / Year)

1902-12-08



# 和佛法律學校講義錄

第九拾號

三十五年度 第二學年ノ二十七

和佛法律學校

明治三十五年十二月八日發行  
(明治三十五年十一月四日第三編郵便物認可 每月十八日三日月五日  
日十三日十五日十六日十八日廿日廿一日廿三日廿五日廿六日廿八日  
日廿十日廿一日廿二日廿三日廿四日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日  
日三十日發行)



第二學年 第二十七號 目次

民法債權 自第二章第二節 (至二〇八) 至同章第十四節 (至二〇八)

法學士 吾孫子 勝

財政學 (自三九〇) 至四九〇)

法學士 下村 宏

雜報

○爲替手形資金ノ受領ト引受○辯護士試験及第者○第二年級特別試験問題

090  
1902  
2-1-27

時ニ又使用者ヲシテ勞務者ノ任意ニ基テ勞力ニ依リ有益ナル結果ヲ受ケシムルノ利益ヲ存スルノ規定タリ而シテ如何ナル事由カ其已ムヲ得ザル事由換言スレハ契約關係ヲ持續スル能ハサルノ事由ナリヤ否ヤハ固ヨリ裁判所ノ認定ヲ待チテ定マルヘキ事實ニ屬ス然レトモ其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス(第六二八條但書蓋シ已ムコトヲ得ステフ解除ノ原因ヲ生シタルコトニ因リテ此原因ノ基テ過失ニ付キ其責ヲ免ルヘキ理ナケレハナリ

以上契約解除ノ場合ニ於テ解除ノ效力ニ付テハ第六百二十條ノ規定ヲ準用スルコト第六百三十條ノ定ムル所トス

尙ホ獨逸民法第六百二十二條ハ教師教育者其他ノ所謂高等ノ勞務ニ從事スル者ニ關シテハ契約解除ノ場合ニ於テ更ニ職業ヲ求ムルノ困難ヲ減輕センカ爲メ四季ノ末ニ限リ且六週間ノ豫告期間ヲ遵守スルトキニ限リ契約ヲ解除シ得ヘキ旨ヲ定メ其他一般ニ繼續的雇傭ノ解除後ニ於テハ使用者タリシ者ハ勞務者タリシ者ノ求ニ因リ更ニ他ノ使用者ヲ求ムルニ相當ノ時間ヲ付與スヘク又

民法債權 雇傭 雇傭ノ終了

第二學年 第二十七號 目次

民法債權 自第二章第二節 (頁一九三) 至同 第十四節 (頁二〇八)

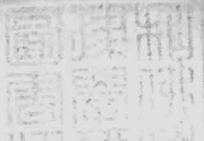
法學士 吾孫子 勝

財政學 (頁三九〇) 法學士 下村 宏

雜報

○爲替手形資金ノ受領ト引受○辯護士試驗及第者○第二年度特別試驗問題

090  
1902  
2-1-27



時ニ又使用者ヲシテ勞務者ノ任意ニ基テ勞力ニ依リ有益ナル結果ヲ受ケシムルノ利益ヲ存スルノ規定タリ而シテ如何ナル事由カ其已ムヲ得サル事由換言スレハ契約關係ヲ持續スル能ハサルノ事由ナリヤ否ヤハ固ヨリ裁判所ノ認定ヲ待チテ定マルヘキ事實ニ屬ス然レトモ其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス第六二八條但書蓋シ已ムコトヲ得ステフ解除ノ原因ヲ生シタルコトニ因リテ此原因ノ基ク過失ニ付キ其責ヲ免ルヘキ理ナクレハナリ  
以上契約解除ノ場合ニ於テ解除ノ效力ニ付テハ第六百二十條ノ規定ヲ準用スルコト第六百三十條ノ定ムル所トス  
尙ホ獨逸民法第六百二十二條ハ教師、教育者其他ノ所謂高等ノ勞務ニ從事スル者ニ關シテハ契約解除ノ場合ニ於テ更ニ職業ヲ求ムルノ困難ヲ減輕センカ爲メ四季ノ末ニ限リ且六週間ノ豫告期間ヲ遵守スルトキニ限リ契約ヲ解除シ得ヘキ旨ヲ定メ其他一般ニ繼續的雇傭ノ解除後ニ於テハ使用者タリシ者ハ勞務者タリシ者ノ求ニ因リ更ニ他ノ使用者ヲ求ムルニ相當ノ時間ヲ付與スヘク又

民法債權 雇傭 雇傭ノ終了



此種ノ契約關係ノ終了ニ方リ勞務ノ關係並ニ其期間其行狀ニ付キ使用者ヲシテ勞務者ノ求ニ依リ證明書ヲ與ヘシムルノ規定ヲ存ス編逸第六二九條第六三〇條

### 第八章 請負

#### 第一節 請負ノ定義

請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生スル契約ニシテ(第六三二條)同條ノ規定獨逸民法第六三一條第一項仕事ノ完成ヲ約スル者ヲ請負人ト謂ヒ之ニ對シテ報酬ヲ與フルコトヲ約スル者ヲ注文者ト謂フ諾成ニシテ有價雙務ノ契約ナリ

第一 當事者ノ一方ハ或仕事ノ完成ヲ約スルコトヲ要ス

仕事トハ物ヲ作成スルコト若クハ之ヲ改造スルコトニ關スルト又其他ノ無形ノ利益ヲ生セシムルコトニ關スルトヲ問ハス總テ勞務ニ依リテ達スヘキ結果

ヲ謂フ(獨逸民法第六百三十一條第二項)此明文アリ例ヘハ家屋ヲ新築シ又之ヲ改築スルカ如キ器械ヲ修繕スルカ如キ有體物ニ加工スルコトアリ計算ヲ爲シ繪畫ヲ描キ音樂ヲ奏シ翻譯ヲ爲スカ如キ事務美術技術科學ニ關スル金錢的價值アル無形ノ給付ニ關スルコトアリ右ノ如クナルカ故ニ契約ノ目的物カ物ニモ非ス權利ニモ非ス又債權者ノ財産ト爲シ得サル爲メ賣買ノ目的ト爲シ得サル事項例ヘハ人ノ運送ノ如キモノト雖モ請負ノ目的ト爲スコトヲ得ヘシ而シテ仕事ニハ通常其目的タル材料ヲ要スト雖モ材料ハ請負契約ノ要素ニ非スシテ仕事ノ目的タルヘキ材料ナキ場合ニ於テモ該契約ノ成立スルコトヲ妨グス又其材料ヲ供スル場合ト雖モ注文者ヨリ之ヲ供スルモ請負人ヨリ之ヲ供スルモ請負契約ノ成立ヲ妨クルコトナク又當事者ノ何レカ主タル材料ヲ供シ其何レカ従タル材料ヲ供スルモ妨ナシ然レトモ請負契約ニ在リテハ請負人カ仕事ヲ完成セシカ爲メニ勞務ニ服スルカ故ニ雇傭ト混スルノ嫌アリ又請負人カ仕事ノ目的物ヲ供スル場合ニ於テハ賣買ト混スルノ嫌ナキニ非ス左ニ之ヲ解説スヘシ

(甲) 請負ト雇傭トノ區別 上陳ヘタルカ如ク請負ハ仕事ヲ完成セシムカ爲メ他人ノ爲メニ勞務ニ服スルノ點ニ於テハ雇傭ト相似タリト雖モ(一)雇傭ハ勞務其モノヲ目的トシ勞務ノ結果ノ如何ヲ問フコトナシ換言スレハ勞務者ノ供シタル勞務カ使用者ノ豫期スル結果ヲ生ゼシト否トヲ問ハス苟モ勞務者カ約者ニ從ヒ勞務ニ服セシニ於テハ約定ノ報酬ヲ支拂ハサルヘカラスト雖モ請負ハ仕事ノ結果其モノニ對シテ報酬ヲ支拂フ契約ナルヲ以テ縱令請負人ニ於テハ勞務ニ服スルトモ其勞務ニ依リ當事者ノ豫期シタル結果ヲ生ゼタルニ於テハ注文者ハ報酬ヲ與フルコトヲ要セス(二)勞務者ハ勞務ヲ供スルニ方リ縱令補助人ヲ用フルコトヲ妨ケサルモ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ自己ニ代リテ勞務ニ服セシムル能ハス又雇傭契約ニ於ケル勞務者ノ義務ハ相續人ニ移轉セサルヲ常トスルニ反シテ請負ニ在リテハ仕事ノ完成ヲ目的トスルヲ以テ苟モ其結果ヲ生ゼシメ得ヘキニ於テハ請負人自ラ其勞務ニ服スルコトヲ必要トセス又其義務ハ通常相續人ニ移轉スルコトヲ妨ケス要スルニ請負ニ在リテハ雇傭ニ於ケルヨリモ勞務其モノニ重キヲ置カス雇傭ニ於テハ勞務其モノニ

報酬ヲ與フルニ請負ニ於テハ勞務ハ附隨的ニシテ契約ノ特質ニ屬セス(乙) 請負ト賣買トノ區別 請負ハ完成物ヲ引渡シテ對價ヲ受クルノ點ニ於テ賣買ト相似タリ隨テ仕事完成ノ勞務ニ服スル者カ其材料ヲ供スル契約ハ請負ナリヤ賣買ナリヤニ付キ學說立法例一ナラス但賣買ニ於ケル一方ノ對價ハ金錢ニ限ラルルカ故ニ金錢ニ非サルモノヲ報酬トスル場合ニ付テハ此疑ヲ生ゼサルコト勿論ナリ)

(一)學說トシテハ(イ)勞務ニ服スル者カ材料ヲ供スル場合ハ一般ニ賣買ト視ルヘシトスル者アリ例ヘハ「ワグランドシャイド」ノ如シ(ロ)勞務ニ服スル者カ主タル材料ヲ供スル場合ニ限リ賣買ト認ムヘシト云フ者アリ例ヘハ「デルンブルヒ」ヲ如シ(二)立法例トシテハ(イ)或ハ仕事ノ完成カ請負人ヨリ物ヲ讓渡スルコトヲ包含スルニ重キヲ置キ賣買契約ノ規定ヲ之ニ適用スヘシトスルモノアリ例ヘハ「獨逸普通法索運民法」(「セネ」)及「ヒドレズデン」ノ草案ノ如シ佛國民法ハ之ニ屬スルヤ否ヤニ付テハ學者間議論アリ或ハ當事者ノ意思ヲ討究シ當事者カ物ニ重キヲ置クトキハ賣買トシ勞力ニ重キヲ置クトキハ請負トスヘシト云ヒ或ハ注文者ニ

於テ材料ヲ供スルヲ以テ請負契約ノ要素ト爲シ請負人カ之ヲ供スル場合ハ賣買ナリト解釋ス(德國民法第一七一一條第一七八七條)ロ芝ニ反シテ普通西普通國法典ニ依レハ請負人カ材料ヲ供スルトモ契約ハ之ニ因リ賣買ト爲ルコトナク引渡スヘキ物ニ付キ請負人カ勞力ヲ供スルノ義務ヲ負ヒ其加フル勞力カ契約ノ目的タルトキハ請負ニシテ請負人カ唯物ノ供給ノ義務ヲ負ヒ自ラ製作シタル物ヲ供給スルモ又ハ第三者ヨリ取得シタル物ヲ供給スルモ可ナル場合ニ於テハ賣買アリト規定シタリ、バイエルン草案瑞西債務法之ニ倣ヘリ(ハ)英國民法ハ折衷主義ヲ採リ其第一千五百八十八條ハ注文者カ材料ヲ供スル場合ニ於テ契約ノ性質ニ付キ疑アルトキハ之ヲ請負ト推定シ請負人カ材料ヲ供スル場合ニ於テ疑アルトキハ之ヲ賣買ト推定スト定ヌ(ニ)獨逸民法第六百五十一條ハ請負人カ自ラ材料ヲ供シテ仕事ヲ完成スヘキ旨ヲ約シタルトキハ之ニ賣買ニ關スル規定ヲ適用スト定ム其理由ハ既ニ完成存在スル物件ヲ賣渡スト將來ニ於テ完成シテ物件ヲ讓渡スルコトノ間ニハ性質上何等ノ區別ナシト云フニ在リ但同法ニ於テハ請負人カ注文者ヨリ供シタル物ニ工作ヲ加ヘ附從ノ物件ヲ請負人ヨ

リ供スルトキハ之ヲ請負トス(獨逸民法第六五一條第二項)ホ舊民法財產取得編第二百七十五條ニ依レハ請負人ヨリ主タル材料ト仕事トヲ供スルトキハ仕事ヲ爲スヘキ條件附ノ賣買ナリ即チ請負人ハ注文者ニ對シ其物件ニ加工シタル上ニテ賣渡スヘシトノ條件附賣買ニテ仕事カ完成シタルトキ賣買契約成立スルモノト爲ス我民法ハ之ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケス故ニ理論ニ從ヒテ之ヲ論セサルヘカラス按スルニ賣買契約ニ於ケル當事者ノ目的ハ權利ノ移轉ニ在リテ請負契約ノ目的ハ仕事ノ完成ニ在リ請負契約ニ於ケル注文者ハ材料ハ所有權ヲ取得スルコトヲ主眼トセスシテ請負人カ之ニ仕事ヲ加ヘテ引渡スヘキコトヲ主眼トス故ニ兩者ノ區別ハ當事者ノ意思如何ニ依リテ定マルモノニシテ仕事ヲ完成スヘキ者ノ勞務カ契約ノ目的内容ヨリ見テ其完成セラルヘキ結果ヲ給付スルコトノ中ニ沒シ去ル場合ニ於テハ賣買ナリト謂フコトヲ得ヘシ

第二 相手方ハ仕事ノ結果ニ對シテ報酬ヲ與フルコトヲ約スルヲ要ス

是レ請負カ雇備ト異ナル所ニシテ當事者カ豫期シタル結果ヲ生セサルニ於テハ報酬ヲ與フルコトヲ要セス而シテ其報酬ハ金錢其他ノ給付タルヲ問ハス苟

モ對價トシテ給付セラルレハ可ナリ且請負契約ニ於テ注文者ヨリ支拂フヘキ報酬ハ多クハ契約ノ當時ニ豫定セラレ且多クノ場合ニ於テ金銭ナルカ故ニ舊民法財產取得編第二七五條ハ仕事ヲ其全部又ハ一部ニ付キ豫定代價ヲ以テ爲スヘキ合意カ請負タル旨ヲ定ムト雖モ之ヲ以テ契約成立ノ要件ト爲スヘカラサルヲ以テ本法ハ之ヲ探ラス若シ契約ニ其豫定ナキトキハ慣習上ノ報酬ヲ約シタルモノト看ルコトヲ得ヘシ

### 第二節 請負ノ效力

#### 第一款 注文者ノ義務

注文者ハ請負人ノ仕事ノ結果ニ對シテ報酬ヲ支拂フノ義務ヲ負フコト民法第六百三十二條ノ規定スル所ニ係リ其他請負人ノ加工スヘキ目的物ヲ注文者ニ於テ有スル場合ニ於テハ之ヲ請負人ニ引渡スコトヲ要スルヤ勿論ナリ右陳ヘタルカ如ク報酬ハ仕事ノ結果ニ對シテ之ヲ與フルモノナルヲ以テ仕事ノ完成後ニ支拂フヲ原則トスヘク隨テ仕事ノ目的物ノ引渡ヲ要スル場合ニ於

テハ其引渡ト同時ニ之ヲ與フヘク(第五三三條參照之ニ反シテ人ノ運送家屋ノ修繕等ノ如キ目的物ノ引渡ヲ要セザル場合ニ於テハ仕事ノ終了ノ時ニ之ヲ與フヘキモノトス(第六三三條第六二四條但仕事カ豫期ノ結果ヲ生セザル場合ニ於テモ注文者ノ任意ニ基キ契約ヲ解除シタル場合及ヒ注文者ヨリ供シタル材料ノ性質又ハ注文者ノ與ヘタル指圖ノ不適當ナルニ因リ仕事ノ目的ニ瑕疵ヲ生シタル場合ニ於テハ注文者ハ請負人ニ對シ其報酬ヲ與ヘサルヘカラス(第六四一條第六三六條)

次ニ請負契約ニ於テ仕事ニ材料ヲ要スル場合ニ特ニ合意ナキトキハ當事者ノ孰レノ一方ヨリ之ヲ支辨スヘキカニ付キ或ハ注文者ニ此義務アリテノ規定ヲ設クルモノノ例ヘハ索逕民法第一二四四條ヘツセン草案第二三〇條ドレズヤン草案第六三五條第一項チキニ非スト雖モ此ノ如キ事項ハ一般的ノ規定ヲ以テ決シ得ヘキ問題ニ非スシテ各場合ノ事情ニ依リ之ヲ決スヘキモノト謂フヘシ又獨逸ノ普通法ニ存在セシ學說竝ニ實例ニ倣ヒテ近世法律中注文者ハ仕事ノ終了シテ其引渡アリタル場合ニ於テハ其可否ヲ検査シ其性質ニ缺點アルトキ

ハ法定ノ期間内ニ請負人ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ要シ爾セサルトキハ其缺點ヲ認容シタルモノトスルモノアリ又仕事ニ存スル欠缺ノ検査及ヒ主張ヲ爲スヘキコトヲ豫メ請負人ヨリ注文者ニ求メタル場合ニ限リ此制裁ヲ課スルモノアリ又其中ニモ注文者カ通常ノ注意ヲ施サハ發見スルコトヲ得ヘカリシ欠缺ニ關シテノミ異議ヲ唱フルノ權利ヲ失ハシムルモノアリ請負人カ惡意ヲ以テ注文者ニ告ケサリシ欠缺ノ外ハ總テノ欠缺ノ主張ヲ許サスト定ムルモノアリ然レトモ本法ハ既ニ賣買ノ效力ニ關スル瑕疵擔保ニ付キ英米法ニ於ケルカ如キ買主ヲシテ賣買ノ目的物ノ性質ノ如何ニ注意セシメ隨テ買主ノ買受ケタル目的物ニ瑕疵アルモ賣主ヲシテ例外ノ場合即チ(一)商慣習上目的物ノ性質使用法其他形狀ニ付テ默示ノ擔保ノ存スル場合(二)買主カ明示又ハ默示ニ賣主ノ技術又ハ判斷ニ依頼シテ賣主ノ豫メ知レル目的ニ使用スルカ爲メニ物ヲ注文シ且其目的物ハ買主カ營業トシテ他人ノ注文ニ應スル場合ナルニ於テハ賣主主ハ其目的物カ使用ノ目的ニ適合スルモノナルコトニ付テ擔保ノ義務ヲ負ヒタルモノナリトスル場合(三)賣主カ營業トスル所ノ物ニシテ買主カ之ヲ検査ス

ルノ機會ヲ得ルコトナクシテ買受ケタルトキハ其目的物ハ買買シ得ヘキ性質及ヒ形狀ヲ備フルモノタルコトヲ暗黙ニ賣主ニ於テ擔保シタルモノナリト看做ス場合(四)製造人ヨリ其製造物ヲ買受ケタルトキハ反對ノ合意又ハ反對ノ慣習ノ存セサル限ハ其製造物ハ賣主ニ於テ製造シタル物ナリトコトニ付キ賣主カ擔保ノ責ヲ負フ場合(五)賣主カ特約ニ依リ擔保義務ヲ負擔シタル場合ノ外ハ其責ニ任セシメストノ原則ヲ採用セシテ一般ニ賣主ヲシテ物ノ性質ニ注意セシメ其瑕疵ノ責ニ任セシムルノ原則ヲ採リタル第五七〇條下同シテ請負ニ於テモ注文者ヲシテ仕事ノ結果ヲ検査セシメ其之ヲ爲ササル場合ニ於テ之ニ對シ失權ノ效果ヲ生セシムルモノト規定セシ蓋シ賣買ニ於ケル買主ニ對スルヨリモ注文者ニ多クノ不利益ヲ課スルノ理由ナケレハナリ

獨逸民法ハ其第六百四十二條以下ニ於テ注文者ハ完成シタル仕事ノ目的物ヲ受取ルノ義務アリトシ之ニ特定ノ制裁ヲ課シタリ是レ獨逸普通法ノ認メタル所ニ係リ獨逸民法第四百三十三條第二項ニ於テ買主ニ物ヲ受取ルノ義務アリトノ明文ヲ設ケタルニ相應スルモノナルモ我民法ハ債權者ノ遲滯ニ關スル規

定ヲ以テ足レリトシ(第四一三條參照此ノ如キ明文ヲ設ケス

### 第二款 請負人ノ義務

請負人ハ契約ニ定ムル仕事ヲ完成シテ當事者ノ豫期シタル結果ヲ生ゼシムルノ義務アルモノナリ而シテ請負人ハ一般ニ自ラ仕事ヲ完成スヘクシテ他人ヲ使用スル能ハサルヤ又ハ如何ナル程度マテ他人ヲシテ之ニ當ラシムルコトヲ得ヘキヤ又仕事ノ完成ニ關シ指揮ヲ爲スヲ以テ足ルヤテフ問題ニ付テハ近世諸國ノ法制ニ多ク其規定ヲ存ス普滿西ノ法律普通國法典第一卷第十一章第九二八條第九二九條ニ依レハ請負人ハ補助者ヲ使用スルコトヲ得ルトモ必ス自ラ仕事ヲ實行スルノ任ニ當ラサルヘカラストシタリト雖モ同國ニ於ケル其學說ト實際ハ請負人カ指揮ヲ與フルヲ以テ足レリトシ唯契約ニ依リ特ニ請負人ノ勞務ヲ目的トスル場合ニ限り自ラ其實行ノ任ニ當ルヘキモノトセラレタリ然レトモ近世多數ノ法制ハ請負人カ自ラ仕事ヲ實行スルノ任ニ當ルコト又ハ自ラ其實行ヲ指揮スルコトヲ以テ契約ノ要素ト爲サス唯之ヲ以テ本則トシ契

約ノ趣旨又ハ其他ノ事情ニ依リ當事者カ結約當時特ニ請負人ノ一身ニ著眼セサリシモノト認ムヘキ場合ハ此限ニ非スト爲ス例ヘハ索逕民法瑞西債務法(ヘンハイエールン)及ヒドレステン草案我民法モ請負人カ其請負ヒタル仕事ヲ自身完成スルコトヲ以テ契約ノ要素ト爲サス請負人ニ此ノ如キ義務アリヤ否ヤ換言スレハ請負人ハ自身仕事ヲ實行セサルヘカラサルヤ又ハ自ラ他人ヲ指揮シテ之ヲ實行セシメ得ヘキヤ否ヤハ専ラ各場合ニ於ケル狀況ニ從ヒテ之ヲ定ムヘキモノトス

右限ヘタルカ如ク請負人カ自身仕事實行ノ任ニ當ルコトハ契約ノ要素ニ非サルヲ以テ本法ニ依レハ請負人ハ特約又ハ契約ノ禁セサル限ハ第三者ヲ使用シテ仕事ヲ完成スルコトヲ得ヘク又第三者ト共同シテ之ニ從事スルコトヲ得ヘク又更ニ第三者ヲシテ之ヲ請負ハシムルコトヲ得ヘシ此等ノ場合ニ於テハ請負人ハ代人又ハ被用者ノ仕事ノ完成ニ關スル過失ニ付テハ自己ノ過失ト同シク其責ニ任スヘキヤ當然ニ屬ス佛國民法第七百九十七條ニハ其明文アリ而シテ被用者ノ不法行為ニ付テハ如何ナル程度ニ於テ其責ニ任スヘキヤニ付テ

ハ我民法ニハ第七百十五條ノ規定アリ）  
 請負人カ更ニ下請負ヲ爲サシメタル場合ニ於ケル下請負人ト第一ノ請負人トノ關係ハ又請負契約ニ關スル規定ノ支配スル所タルヤ勿論ナリ舊民法財產取得編ハ第二百八十五條第一項ニ於テ此旨ヲ明示シ尙ホ其第二項ニ於テ請負人カ下請負人ニ對シ負擔スル金額ヲ辨濟セサルトキハ下請負人ハ自己ノ名ヲ以テ直接ニ注文者ニ對シ其注文者ノ猶ホ請負人ニ辨濟スヘキ債務ノ限度ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得ヘキ旨ヲ定ムト雖モ本法ハ一般ニ第四百二十三條ノ規定ノ存在スルヲ以テ足レリトシ貸貸借ニ於ケル轉貸ニ付キ存スルカ如キ直接ノ訴權ヲ認メス  
 上陳ヘタルカ如ク請負人ノ義務ハ仕事ノ完成ニ在リ獨逸民法第六百三十三條第一項ニ請負人ハ其約束シタル性質ヲ具ヘタル仕事ヲ成シ且之ニ其價格ヲ消滅若クハ減少スヘキ瑕疵ノ存セサルコト及ヒ物ノ通常ノ使用若クハ約定シタル使用ヲ不能ニシ若クハ之ヲ減少スルノ瑕疵ノ存セサルコトニ付キ其責ニ任スヘシトアルモノ即チ是ナリ而シテ其仕事ニ目的物ナキ場合ニ於テハ單ニ其

仕事ヲ完成スルヲ以テ足ルモ仕事ニ目的物アル場合ニ於テハ其完成シタル物ヲ注文者ニ引渡ス義務アリ且請負人カ材料ヲ供シタル場合ナルニ於テハ其所  
 有權ヲモ移轉スルノ義務アリ隨テ其義務ノ履行前ニ於テハ注文者ニ對シ報酬ヲ求ムルコトヲ得サルヲ原則トシ（第六三三條又隨テ仕事ノ目的物ノ一部又ハ全部カ注文者ニ於テ之ヲ約定通リノ給付ナリトシテ受取ル前不可抗力ニ因リ消滅スルトキハ其危險ハ請負人ノ負擔ニ歸シ請負人ハ自己ノ費シタル勞力並ニ費用ニ付キ報酬ヲ求ムルコトヲ得ヘカラス（第五三六條然レトモ材料ノ危險ハ物ノ所有者ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノニシテ他人ノ材料ニ加工スルニ際シ請負人ノ過失ナク不可抗力ニ因リ其物カ消滅毀損スルモ請負人ハ之ニ付キ責ニ任スルコトナシ獨逸民法ハ第六百四十四條ニ於テ右ノ旨ヲ明示シ尙ホ注文者ハ遲滞ニ付セラレタル時ヨリ仕事ノ危險ヲ負擔スル旨ヲ規定ス）  
 仕事ニ目的物ナキ場合ニ於テ請負人カ仕事完成ノ義務ヲ履行セサルトキハ注文者ハ一般債務ノ不履行ニ關スル規定ニ遵ヒ或ハ損害ノ賠償ヲ求ム或ハ契約ノ解除ヲ爲セトヲ得ヘシ（第一一五條乃至第四二二條第五四一條乃至第五四



七條ト雖モ本法ハ仕事ニ目的物ノ存スル場合ニ關シ當事者ノ私益ヲ保護シ且公益ヲ保護スルカ爲メニ第六百三十四條乃至第六百四十條ニ特別ノ規定ヲ設ケタルヲ以テ右陳ヘタル一般債務ノ不履行ニ對スル救済方法ハ請負契約ニ在リテハ唯仕事ノ目的物ノ存在セサル場合ニノミ適用アリト謂フヘシ左ニ此特別規定ニ付テ説カシムルニハ第六百三十四條ニ於テハ「修理ノ費用ハ債權人ニ歸スルコトヲ得」ト云フニ在リ

(甲) 瑕疵ノ修補ヲ求ムル權

仕事ノ目的物ニ瑕疵アルトキハ注意者ハ請負人ニ對シ相當ノ期限ヲ定メテ其瑕疵ノ修補ヲ求ムルコトヲ得ヘク(第六三四條第一項)前段請負人カ之ヲ拒絕スル場合ニ於テハ第四百十四條第二項ノ手段ニ依賴スルコトヲ得ヘシ然レトモ其瑕疵カ重要ナラスシテ之ヲ修補スルニ過分ノ費用ヲ要スルトキハ單ニ損害ノ賠償ヲ求メ得ヘキモノトス蓋シ此ノ如キ場合ニ於テ修補ヲ要スルハ經濟上ノ利益ニシテ請負人ニ對シテモ酷ニ失スルカ故ナリト云フ(第六三四條第一項後段)

(乙) 損害ノ賠償ヲ求ムル權

同收スルニ於テチ加ブルニ内國債ノ利子ハ政府歳入ノ中ニ編入スト雖モ是即チ國民ノ拂フ所ノ税金ナリ外國債ノ利子ニ至リテハ全ク外國ヨリ得ルモノナリ而シテ一朝事變アル場合ニ在リテモ外國債ハ敗北スヘド思惟セラレタル敵國ノ公債ナルカ其他ノ特別ノ場合ノ外ハ爲メニ下落スルコトナシ云云ト云フニ在リ私見ヲ以テスレバ第一ニ非常準備金ヲ認メス第二之ヲ認ムルモ公債等ヲ以テ所持スルトキハ名ハ非常準備金ナリトスルモ實ハ其用ヲ充タス克ハサルモノナルヲ以テ此場合ハ非常準備ノ爲メ何レカ效果アルヤ否ヤノ問題ハ先ヲ以テ論點外ニ置クヘキモノト信ス隨テ單ニ財政上ノ原則ヨリ尤モ政府ニ利益アル方法ヲ取ルヲ以テ勝セリト爲スガリ隨テ本問ノ場合ノ如キ當時當該國ノ金融界ノ狀態財政界ノ形勢如何ニ由リ絕對ニ此ヲ論斷シ難キモ利子ノ高低ヲ標準トシ結局利益ノ大ナル方ヲ取ルヲ可トスルモノナリ故ニ今我邦等ニ在リテハ名ハ非常準備タランモ平時戰時東西同時ニ其目的ヲ達センコトハ事實不能ニ屬シ其額又些少ナルモモテ宜シク公債ヲ購入スヘク又其公債ハ我内國債ハ外國債ニ比シテ利子ノ大ナルヲミナラス其計算移轉等手數ト

於テ又内國債ヲ以テ便ト爲ス又以テ宜ク内國債ヲ購入共所限以テ勝レ邊ト  
信ス非常準備ノ目的ヲ副スヤ否ヤ分既テ前提テ於テ又テ執ラレ所ナリ其公  
債ノ非ニハ、  
第三款 租稅ノ指徵ト公債ノ募集

臨時費支拂ノ方法以テ利官有財産ノ擡下又ハ非常準備金ヲ不可ナラコトト上  
述スル所ノ如ク而シテ租稅ノ新設又ハ増率又可トスル夫誠ハ公債ノ借入又ハ  
募集ヲ可トスルヤニ至リテハ利害關係複雜ニテ絕對并之カ是非ヲ論斷シ難  
所ナリ學說モ亦多岐ニ分レテ一定スル所アルヲ見ズ令便宜ノ爲メ茲ニ併ニ論  
述シ其利害ヲ對照シ此カ大體ノ概念ヲ述ベテトス  
公債ハ正宗ノ力ナリ其銳利速ヲ斷ジニ足ル共ニ其濫用ハ又甚シキ害毒ヲ醸  
シ又其濫用ヲ機會少シト爲ラズ力ナリ公債ハ弊害ハ公債其モノニ存セズ  
以テ之ヲ濫用方法ヲ誤ラシムルモ在リ公債ハ募集ハ政府ノ浪費ヲ誘引シテ  
行政ノ弛廢ヲ來スト曰ク租稅ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ公債ニ依ルハ政府好  
シク損失ヲ招クモノナラズ曰ク公債ハ現世人ノ其利益ヲ享有セテ其苦

痛ヲ後世ノ人ニ貽スモナリト曰ク公債ノ募集ハ却テ政府ノ信用ヲ失墜シテ  
財政ヲ紊亂スルノ虞アリト曰ク租稅ハ公債ニ比シテ政府人民共ニ此カ勤勉節  
儉ヲ獎勵スト曰ク展公債ヲ募集スルニ於テハ資本家ヲシテ偷安ノ氣ヲ生セシ  
メ必要ナル事業ノ發達ヲ妨害スルヲ憂アリト曰ク公債ハ一國流動資本ノ増加  
ヲ障害シ不動資本ノ改良ヲ阻害スルノ弊アリト曰ク公債ハ戰爭ヲ誘導シ租稅  
ハ戰爭ヲ制止スト曰ク公債ハ國民ノ財政監督ヲ軟弱ナラシムルモノナリト曰  
ク公債ノ募集ハ物價ノ昂騰ヲ來タシ率ヲ恐惶ノ原由ヲ爲スモノナリト曰ク公  
債ハ勞力者ノミヲシテ公費ヲ負擔セシムルモノナリト曰ク等此等ノ非難モ宛  
竟公債ノ使用方法ヲ誤ラレ易シト云フニ歸ニスル所ニシテ其使用方法ノ誤  
ラレ易キハ一ニ其募集ノ容易ナルニ在リ收入ノ途容易ナルトキハ濫費ノ之ニ  
伴フハ數ノ免レ難キ所ニシテ殊ニ政府ニ在リテハ負債ノ危險ハ一私人ノ場合  
ニ比シテ發生スルコト稀ニシテ又此カ嚴正手段ニシテカヲ以テ不知不  
識ノ間ニ弊害ヲ醸成セ管ニ租稅ニ依ルハ其場合及租稅ニ依ルコトヲ得ヘキ  
場合ニ公債ヲ以テスルニ及ガズ以テ政府ノ功名心不注意ハ不急需ノ事業ヲ

企テ時ニ一國ノ生存ヲ危クスルコト少カラス是レ一方ニハ人民カ租税ノ場合ノ如ク其利害關係自己ニ直接ニ影響スル所ナク公債ヲ起ストキハ結局之カ償還ノ爲メ後來租税ノ負擔ヲ受タヘキモ眼前ノ利害關係ニ影響セサルヨリ之カ利害ヲ討究スルコト自ラ等閑ニ付シ易ク殊ニ應募者即チ社會ノ有力ナル一部分ヨリ觀レハ管ニ元金ノ償還ヲ受クルノミナラス尙且利子ヲ收得スルモナルヲ以テ輿論ノ反抗ヲ招クコト尠ク事ヨ一部實本家ノ歡迎ヲ受クルモノナリ以テ政府ハ租税ノ徵收ニ由リテ支辨セラルヘキ經費モ平易ニ財政一時ノ彌縫ヲ公債募集ニ依ルノ傾向ヲ生シ易シ所謂モ「（譯）」カ政府カ公債ノ募集權ヲ得ルヘ猶且浪費者ニ倫敦ノ銀行ヨリ預金引出ノ權利ヲ與フルニ異ナラスト云ヘルモノ亦是ナリ

臨時ノ不足ノ性質ヲ分類スレハ其間ニ豫期スルモノト豫期セザルモノトアリ天災地變殊ニ戰爭ノ如キニ其發生ノ豫期セ難キノミナラス其經費ノ總額モ亦豫期セ難キモノナリ土木等ニ爲メニ要スル費用即チ郵便電信鐵道海運河其他軍備等ノ企業ニ在リテハ其發生其經費共ニ大體ニ於テ之ヲ豫期スルモノ

難シト爲ナス面シテ前者ハ其支出ノ絕對的ニ急速ナルコトヲ要スル場合多ク後者ハ其支出ノ相對的ニ急速ナルコトヲ要スル場合多ク即チ此等ノ工業ハ毎

年經常費ノ定額内ニ於テ其經費ヲ支辨シ資金盡クルトモ再ヒ資金ヲ生スル迄ハ工業ヲ中止シ得ヘキ性質ヲモテニ非ラズシテ絕對的ニ急速ナラザルヲ得ザルニハ非ザレトモ此等ノ生産事業等ハ速ニ竣功セスンハ一方ニハ其間投下セ

ル資本ヲ死物ト爲シ一方ニハ富ノ増殖ヲ遲延セシムルノ虞アルヲ以テ急速ナルヲ必要ト爲スモノナリ殊ニ此等ノ事業ハ其利害關係一般ノ人民ニ通シテ緊切ナルモノニ非ザルヲ以テ増税ニ當リ急速ニ需要ヲ充ス能ハサルノミナラズ

一般人民ノ反抗ヲ招キ易キモノナリトス故ニ土木事業ノ經營ニハ公債ニ依ルコトヲ例ト爲スハ前述セル處ニ如シ

漆洲殖民地及ヒ印度ノ公債ノ如キ殆ト皆土木ノ爲メニ起セシモノニシテ歐

米ニ於テモ土木ノ爲メ公債ヲ起スモノ甚多シ著者名ナルモノニ至リテハ

佛蘭西英吉利埃及等カ起セテ露士運河公債ノ如キ佛蘭西ノ巴黎馬運河會社

ノ株券ヲ保證セルカ如キ露西亞ノ西比利亞鐵道公債之如キ其例ナリ我國ニ

在リテモ明治十二年に發行地起業公債明治十六年ニ發行セル中山道鐵道公債明治十九年ニ發行セル海軍公債明治二十九年ニ發行セル事業公債ノ如キ皆此類ニシテ其他地方自治團體ニ於テ起セル地方公債ニ至リテハ其類各國ニ通シテ甚ク多シ公債ハ債主ノ利益ニ依ルニ起ルモノナリトモ此等ノ事業ニ在リテモ一時之ヲ起ストキハ忽チ流動資本ト固定資本ノ權衡ヲ失シ金融市場ニ激動ヲ來スル自明ノ理ニシテ外國債ニ依ルトキハ急激ナル資本ノ潤澤ハ物價ノ暴騰投機事業ノ濫興ヲ來シ其反動トシテ金利ノ上騰物價ノ下落ト爲リ經濟界ヲ紊亂スル事又内國債ニ依ルトキハ流動資本ヲ吸收シテ金融ノ逼迫ヲ來セ率テ恐慌ヲ來ス至ルハ米國太平洋鐵道ノ起業ニ徴スルモ言テ埃タタル所ナリ一方ニハ急速ヲ要スルト共ニ一方ニハ之ニ對シ當時ノ經濟界ノ趨勢ニ鑑ミテ多少ノ斟酌ヲ加ヘムシム非ナラザリ蓋シテ此等ノ債主論者或ハ直接間接ニ政府助土本事業ヲ經營スルコトヲ非難シ英國ノ實例ヲ引キテ根本ヨリ消極論ヲ主張スル者アリ是レ自由放任主義ニ偏見ヲ所見ニシテ固ヨリ干渉ノ極民業ヲ相競争スルハ其弊害少カラスト爲ヌモ歴史上放任主義

ノ理論實際ニ行ハレ其富ノ大ニシテ其人民ノ進取ノ象氣ニ富ナル英國ヲ以テ直チニ一般ヲ律スル其根本ニ於テ誤レルハミナラス英國ト雖モ地方政府ニ在リテハ其公債ノ大部ハ土木事業ノ經營ニ屬シ而モ年々多少ノ増加ヲ示シ一八八六年ニ於テ五九八七〇〇磅ナリ一八八七年ニ於テ六八二〇〇〇磅ナリ一八九九年初ト爲レリ(アングロサクソン人種千印度洋洲加奈太喜望峯等ノ殖民地ニ在リテハ土木ノ公債ヲ起スル例ト爲セリ要之起業公債モ那翁三世ノ如ク不怠無用ノ事業ニ濫費スレハ固ヨリ其害甚大ナルモ苟モ有用ナル事業ナルトキハ金融界ノ狀況ト其事業ノ性質必要ト對照シテ公債ノ募集ニ依ルヘク若シ租稅ニ依ルモ尙ホ害ナシトスレバ之ニ依ルヘキコト又言テ埃タタル事唯概シテ其全部ヲ租稅ノ方法ノ所ニ依リテ支障ナク場合ナキ事實ニ於テ多クカラスト云フニ過キタルナリ) 實ニ一國ノ財政ニ關スルハ其國ノ經濟狀況ニ依リテテラムス民ハ巨額ノ臨時不足ヲ充テカ爲メ臨時ノ増稅ニヨルハ公債ニヨル濟財ノ方便ニ比シテ實ニ國民ヲシテ苛大ノ負擔ニ苦シムルハ人ノミナラス經濟界ヲ擾亂シ其臨時ノ増稅ニシテ重キニ矣スルトキハ勢ヒ政府ノ徵收スル課稅

額ノ全部若クハ一部以テ更ニ國民ヲシテ私債ヲ起スノ必要ヲ生スルニ至ルベシ  
 公債發行ノ場合ニ於テハ政府一人ニシテ債務者ト爲リ債權者ハ各自ノ財産所  
 得ノ餘裕ニ伴ヒ資本ヲ供給スル幾千ノ資本家ナリ重税賦課ノ場合ニ於テハ債  
 權者ハ政府一人ナルモ債務者ハ資本ノ一部ヲ割キテ政府ニ納付スル幾萬ノ生  
 產者ナリ故ニ公債ノ重税トノ利害ハ政府ト一人トハ何レモ低利ノ資本ヲ借  
 入ルコトヲ得ベキヤノ一點ニ歸著スヘシト所論少シテ極論ニ奔ルノ嫌ナキニ  
 非ラサルモ亦此等臨時巨額ノ支拂ヲ充テカ爲メ公債ノ便ニシテ且ツ利ナルハ  
 詳論ヲ俟タサル所ナリ蓋シテ「臨時巨額支拂」ノ「救正方法」ニ對シテ「公債」  
 豫期シ難キ臨時ノ支出即チ主トシテ軍事實費ニ付テハ「アダムス」ニ「リカ  
 ド」ニ「ヤン」ニ「ブ」ニ「ア」ニ「スト」ニ「セ」ニ「イ」ニ「シ」ニ「ロ」ニ「セ」ニ「フ」ニ「ガ」ニ「ル」ニ「ニ」ニ「エ」ニ「シ」ニ「セ」ニ「イ」ニ「コ」ニ「ル」ニ「ベ」ニ「ア」ニ「グ」ニ「ラ」ニ  
 「キ」ニ「ス」ト」トシ等々大家ニシテ猶ホ租税ニ依ルヘシト主張スル者アリ「アダムス」  
 「ス」氏ノ如キ其所論ハ經濟上財政上等ニ基因ニシテ道徳上ノ觀念ヨリ立論シ  
 戰爭等ノ時ニ當リ政府重税ヲ課シテ民心ヲ失フヲ恐レ彼「レ」ニ「ハ」公債ノ募集  
 以テ其費用ヲ助ケ後世子孫ヲシテ重税ヲ負擔セザルカ如キハ理ニ於テ爲ス

ハカラス大國ノ人民ニシテ進ニ戰地ニ違カレル者ハ戰爭ノ異客ヲ被ラス切リ  
 日且其軍勢ノ勝報等ニ接シ快ヲ取ルモノニ似タリ故ニ重税ヲ負擔スト雖モ決  
 シテ不滿ノ念ヲ懷テズノニ非ラズト述ヘ又「グ」ラ「ウ」ド「スト」一「ン」氏カ「ク」リ「ミ」ヤ「戰  
 争」ノ際主張セル論據ノ如キモ亦道徳ノ觀念ニ基キ公債ヲ以テ事ヲ爲スハ其  
 之ヲ爲スニ非ラス後世ヲシテ其局ヲ結ハシムルモノナリ而シテ戰爭ニハ多少  
 ノ名稱之ニ伴フモノナレハ特ニ租税ノ重キヲ覺エタルトキハ戰爭ノ痛苦ヲ悟  
 ラス動モスレハ國力ヲ濫用セテ干戈ヲ動カス憂アルヲ以テ殊ニ其重税ヲ悟ラ  
 シムルハ大ニ一國人民ノ勤勉慎重ヲ念テ喚起スルモノナリト論セリ又「コ」ル「ベ  
 「イ」氏ノ如キ財政上ヨリ公債ノ増加ハ一方ニ租税ノ増加ヲ避増シ遂ニ停止ス  
 ル所ヲ知ラサルニ至ルコトヲ論セリ此等ノ所論固ヨリ絶對ニ非難スヘカラナ  
 ルモ非常ノ費用ヲ仕拂フニ當リテ租税ニ依ルヘカラサルハ事實問題トシテ絶  
 對又ハ相對ニ不能ナルニ在リ「臨時巨額支拂」ノ「救正方法」ニ對シテ「公債」  
 急遽ノ需要ヲ待テ軍事實費ノ如キハ供給ノ機ヲ失スレハ延テ一國ノ生存ヲ消  
 長スルニ至ルモノナリ隨テ若シ租税ニ依ルモノトセハ勢ヒ増税ニ依ラスンハ

財政學 兼支拂合論 總論 臨時ノ不足ニ對スル救正方法

非ス然レモ近時何レノ財政ニ於テモ經費ノ支出益多キヲ加ヘ平時ニ在リ  
 又税率ノ低度止テ非常ノ需要アルニ際シ之ニ應スルノ餘裕ヲ作ルコト時  
 時稀ニシテ殊ニ直接税等ハ納税期一定セルヲ以テ之ヲ變更シテ増率シ一時  
 入収入ヲ計ルコトハ容易ノ業ニ非ス又間接税等ハ納税期一定キアルヲ例ト爲  
 スモ此等ノ租税ハ戰時ノ如キ經濟界不振ノトキハ總令税率ヲ變更スルコト無  
 キモ其收入ヲ減少シ此カ増率ヲ爲ストキハ益其收入ノ減少ヲ來スモノナル  
 ハ前ニ租税屈伸力ノ節ニ於テ論述セル所ノ如シ況ハ軍事費ノ如キ巨額ノ支出  
 ヲ要スルモノニ在リテハ必キ新税ニ依ラズシテ非ラズ而シテ新税ノ設置ハ  
 政府爲メニ許多ノ手数料費用ヲ要シ收入緩慢ニシテ急速ノ需要ニ應スル能ハ  
 ス豫定額ノ收入ヲ期スルニ難ク若シ豫期ニ反スレハ財政破綻ノ緒ヲ開キ人民  
 憂戚情ヲ害スルコト深ク租税ノ公正ヲ誤ルコト多クハタ結局新税ニ依  
 ラシテハ絕對的不能ナリ斷言スルモ敢テ不可アルヲ見サルナリ故ニ若  
 租税ニ依ラズシテ財源ヲ涸竭シ一般生産事業ヲ阻害セサル範圍内ニ於テ  
 増率法ニ法ニ便ラズハアララス而シテ其時期ノ遷延ハ納税期ノ一定セルモノニ於

テ殊ニ甚シキヲ見ルヲ以テ多クハ先ツ税率ヲ増シ又ハ新税ヲ起シテ其實收ニ  
 先シテ一時大蔵省證券ヲ發行シテ急速ノ需要ニ應ジ租税ノ收入ヲ以テ漸次之  
 ヲ償却セル例アリ是レ英國カ「タリ」ノ戰争ニ於テ實際セシ方法ニシテ又少  
 トモ一時ノ方便トシテ公債ノ絕對的ニ必要ナルコトヲ反證スルモノナリ  
 合衆國ニ於テハ一千八百十二年ノ戰役ニ戰事費トシテ徵收セル直税ハ當初  
 二年間ハ收入ヲ生スルコト無ク一千八百十六年ニ於テ最高額ノ收入ヲ生シ  
 タルモ既ニ財政ノ窮況ヲ脱シタル時タリナリ又南北戰爭ノ際ニ於ケル内  
 國消費税モ一千八百六十三年ノ下半年期ニ至ル迄ハ著シキ減入ヲ生スルコト  
 無ク一千八百六十五年四月一日前四箇年度ノ總收入額ハ三億一千四百萬弗  
 ナリシカ其後四箇年度ノ總收入額ハ九億六千七百萬弗トナレリ是等ノ實例  
 ハ其ニ新税法ノ施行ハ財政上緊急ノ事變ニ際シ毫モ依ルヘカラサル所以ヲ  
 明證スルニ餘アリトス里「イ」ノ戰争ハ「イ」ノ戰争ニ對シテ  
 「タリ」ノ戰争ニ於ケル英國財政ノ措置ハ非常支出ノ爲メ租税ニ依リシ好箇ノ  
 實例ニシテ又他ノ例ヲ見サル所カリトス蓋シ當時ノ英國ハ四十年ノ太平ノ後

ラ受ケ諸稅殊ニ間接稅ハ非常ノ減率ヲ經テ租稅ヲ增加セシト雖亦實ハ唯舊稅率ニ復セシニ過キナリシナリ而シテタリミヤ戰争ハ輿論ヲ歡迎ヲ受ケ殊ニ戰地ハ本國ヲ去ル八百海里ノ外ニ在リテ經濟界ハ爲メニ毫モ妨害ヲ受ケルコトナク露土ト英トノ商業其利害關係痛切ナラス其經費ノ總額モ露佛ニ比シテ少ク其需要モ亦急速ヲ要セス而シテ其結局ハ勝利ヲ了リシモノナルヲ以テ此ノ如キ機會ハ英國ニ於テ又稀有ニ屬スルモノニシテ他國ニ在リテハ又殆ト期スルコト克ハナルモノナリ而シテ此好機會ニ於テ仍ホ此租稅ニ依リテ之カ教正ヲ全クスルコト克ハス租稅論者ゾテラドホトトシ民ノ名望勢力ト英國人民ノ富裕ナルニ拘ラヌ遂ニ永遠公債ニ依ルノ止ムヲ得タルニ至リシハ少クトモ此等ノ場合ニ於テ全ク租稅ノミニ依ルコトハ絕對モ不能ナルコトヲ示スニ餘アリト爾フヘキナリ即チ當初ハ間接稅直接稅殊ニ所得稅ヲ增加セタルモ其收入ノ遲延タルト之ヲ急ニ增加スレハ大ニ産業ヲ發達ヲ阻害スルコトヲ見出セルヲ以テ一箇年以内ノ償還期限ヲ有スル大藏省證券ヲ發行シ依リシモ其證

券ノ應募者少キト政府豫期ノ如ク之ヲ償還シ能ハサルヨリ遂ニ千八百五十四年更ニ同類ノ證券ノ期限三箇年乃至五箇年ノモノヲ發行スルコト前後四回ニ及ヘリ若シ此方法ニ依リテ豫期スル所以金額ヲ吸收シ尙ホ豫期ノ如ク整理ヲ完ウセシニハ租稅增加法ト國債募集法トノ長所ヲ併用シテ負擔ヲ後世ニ貽スコトナク又稀有ノ好果ヲ見ルハカリシモ應募額ハ僅僅七百萬磅ニ止リテ所要ヲ充タヌコト迄ニ達シ一方ニシテトシ民ニ仍ホ所論ヲ一貫シテ重稅ヲ課スルコトヲ敢テスルコト克ハス一千八百五十五年四月迄ニ三分利附ヲ以テ一千六百萬磅ノ永遠公債ヲ募集スルノ止ムヲ得タルニ至リ同年又五百萬磅ヲ募集シ翌年ニ至リ更ニ五百萬磅ヲ募リ又大藏省證券三百萬磅ノ永遠公債ニ借換スルニ至リ依ニタリミヤ戰争費總額六千九百二十七萬七千六百九十四磅中永遠公債ニ係ルモノ二千九百萬磅之ニ大藏省證券ヲ加フレハ總計三千九百七十一萬五千磅ニシテ其過半ハ實ニ公債ノ力ヲ假ルノ止ムヲ得タルニ至リ蓋シ大藏省證券即チ短期公債ニ依ルコトハ外國ノ游金ヲ吸收スルニ足ラス内國人モ其未數ニ比シテ利益ノ割合少キヲ以テ之ニ應ズ者少ナク又



大銀行ト雖モ巨大ノ額ヲ賣盡スニト克ハサルニ之ヲ購買シテ死物ト爲スノ慮ヲ學ハサルノミナラス又克ハサル所ニシテ殊ニ戰爭後三四箇年間ニ重稅ヲ課スヘキトキニ非ラスレバ却テ民力ヲ扶養スヘキトキナラバ以テ暫ク措置キテ償却セサルヲ便トシ又租稅モ無限ニ此ヲ徵收スルコト克ハス通常費ヲ超ユルコト多キ非常費ヲ租稅ニ仰カシコトハ殆ト事實不能ト謂ハネンハ非ス地勢ニ於テ富ノ實力ニ於テ國民ノ品性ニ於テ英國ニ劣レル各國ニ於テ殊ニ然ルヲミナラス戰敗レタル場合ノ如キ又言フ埃タサルナリ

論者或ハ公債募集ノ必要アル多クノ場合即チ戰時等ニ在リテハ人民皆危懼ノ念ヲ懷キ資本ハ多ク藏匿セラレ警戒ヲ加フル秋ナルヲ以テ資本ノ吸收ハ最モ困難ヲ極ムル所ナリトス故ニ募集ノ成效ヲ期セシカ爲メニハ種種ノ特典ヲ付與スルコトヲ要スルノミナラス一朝其誘引ニシテ仍ホ效ヲ奏セサルトキハ政府ノ信用失墜シテ第二期第三期ニ募集ノ度ヲ重スルニ從ヒ其失態ノ復拾收スヘカラナルニ至ルモノナリ故ニ千八百十二年及千八百六十一年ノ合衆國財政ノ狀況ノ如キ是ナリト反論スルコトヲ然レトモ關テ軍事費ヲ支出スル爲

メ政府カ公債ヲ募集シテ而モ其效ヲ奏セサル場合ハ多ク其政府ハ戰爭ニ於テ敗北ニ歸スヘキコト一般ニ認メラレ又財政ノ信用既ニ業ニ動搖セル場合ニシテ近ク米國戰爭ニ於ケル西班牙政府ノ如キ狀態ニ臨ムル時ニ在リ此等ノ秋ニ在リテ公債ヲ奏效シ難ク率テ財政ノ破綻ヲ來タスヘキコトハ固ヨリ疑ナキ所ナレトモ此等ノ場合ニ於テ租稅ヲ以テセハ其失敗ノ大ナル更ニ公債ノ場合ニ格確スルノミナラス其弊ノ及フ所亦獨リ財政ノ一面ニシテ限ラレサルコトヲ思ハスモハ非ス彼ノ普佛戰爭ノ時ノ如キ佛國ノ經費ノ總額ハ百十四億七千百萬法ニ上リ佛國財產總額ノ一割四分餘ニ當リ北米合衆國ノ南北戰爭ニ於ケルカ如キ千八百六十二年ニハ內國生産額ノ五分ノ一ニ當リ千八百六十五年ニハ二割七分ニ上レリ此等ノ場合ニ全然租稅ニ依ランコトハ收入ヲ得ルノ法ニ非ラスシテ收入ノ財源ヲ瀕瀕ルモノニシテ苛稅ノ重欲ハ公債ノ募集ニ對シ其困難復伺用ノ論ニ非タス如何トナレハ人民ノ財產ハ流動資本ノミヲ以テ積立ラサルモノニ非サルヲ以テ被稅者ハ直チニ之ニ應スルコト克ハス結局公債ノ元利ヲ支拂フヨリ幾倍ニ高利ノ金員ヲ他ヨリ借入レサルヲ得サレハナリ

公債ヲ募集シ募集ノ必要ニ非ズル者ノ言ノ如シ然レトモ租税ノ差收ノ尙キ難キヲ知ラズンハ非ラサルナリ

然レトモ公債ハ窮極ノ時ニ處要ノ支出額ヲ充タスシテ濟崩ノ法ニ依リ之カ負擔ヲ後世ニ貽スモノナリ故ニ若シ急速ノ需要ニ對シ全部又ハ一部ヲ租税ニ依ルヲ便トシ又租税ニ依ルコトヲ得ヘキトキハ公債ヲ後ニシテ租税ヲ前ニシヘキコト又言ヲ按タサルナリ此點ニ於テ失敗ノ歴史ヲ繰返セシハ佛蘭西トテ第一大佛蘭西ニタリキヤ戰爭ニ於テ千八百五十五年ニ一回翌年ニ二回ト前後三大公債ヲ募集シ其實收高ハ十五億三千八百二十四萬三千九百四十八法ニシテ其元金高ハ二十二億百五十萬六千八百八十法其利子七千七百七十萬九千四百法ヲ增加シ勿論十五億餘法ヲ一兩年間ニ全然租税ニ依リテ徵收センコトハ不能ノ業ナルヘキモ戰爭ノ當初ニ在リテ増税又ハ新稅ヲ起シテ一割五分乃至二割ヲ增加スレハ少クモ公債高ノ三分ノ一ハ此ヲ減少スルコトヲ得ヘキナリ

「譯」民ノ賦ニ依レハ郵便稅減少ノ禁止並稅入市稅ノ復舊地租ノ附加稅

「譯」動產轉稅ノ設定時期ヲ早ツル等ニ因リ二億九百萬法ヲ得ヘク之ヲ千八百五十八年マテ繼續シテ八億一千八百萬法ヲ得ヘク戰後其増稅ヲ不便トシ其幾分ヲ廢止シ凡ソ六億四千萬法ヲ保存セシトスレハ唯九億五千餘萬法ヲ實額ヲ借入レ公債額面ヲ十五億法餘ニ増額シ公債證書ノ發行高少クシテ其價格比較的高カルヘキヲ以テ利子モ年年四千八百法ニテ足レリト云云

第二次ニ伊太利戰爭ニシテ實收額五億千六百六十六萬七千八百七十八法ヲ借入レ公債ノ額面ハ八億五千五百七十三萬七千七百七十七法ニシテ利子ノ支拂額ハ二千五百七十七萬三千三百七十法ヲ增加セリ此場合モ舊稅ノ復舊及ヒ二三ノ附加稅ニ依リテ二億乃至二億五千萬法ノ公債ニテ此カ費用ヲ辦償スルコトヲ得タルモノナリ其後佛蘭西政府ハ千八百六十二年同六十四年同六十八年ニ三回公債ヲ募集シ其實收額ハ十三億三千萬法餘ニシテ額面價格ハ十五億三千八百萬法餘其利子四千五百八十五萬六千七百七十四法ナリ而シテ一方ニシテ戰爭後各種ノ租稅ヲ廢止又ハ減率シ千八百四十八年ヨリ同六十五年マテ増減ヲ見ルニ減少ニ係ルモノ三億三千七百四十四萬九千九百九十九法増加ニ係ルモノ

三億二千八百五十四萬四千九百十法ニシテ減少ノ多キコト八百餘萬法ナリ  
 二反シ同期間内ニ政府ノ借入高ハ實收額三十五億餘法ニ上レリ故ニ此十七年  
 間此増減ノ間ニ調和ヲ求ムレハ公債ノ半ハ之ヲ減少スルコトヲ得シヤ疑フ容  
 レナルナリ蓋シ公債ヲ起スル急アルニ際セハ有害ニシテ持クヘカラサル惡稅  
 ニアラサル限リハ暫ク之ヲ保存シ後世公債ノ元利支拂ノ負擔ヲ減少スルコト  
 最モ必要ノ方便ト相ハスルヤアラサルナリ、  
 尙ホ租稅論者中ラツワフヒリゴト「」ノ如キ極端ナル非常稅論ヲ主張スル者  
 アレトモ事實各々不能ノ空論タレヲ以テ又此ニ論述スルノ要ヲ見ス  
 之ヲ要スルニ臨時費ノ支出カ豫期ヲ難キモノタレト否トヲ論セズ公債ノ募集  
 ハ一國ノ財産止ムヲ得サル方法ニシテ且ツ租稅ニ比シテ便ナリトスル方法  
 ナリ唯其效果ノ著キキ本ニ信用ノ發生レ易ク其害毒亦甚ク大ナルヲ以テ能ク  
 時ト場合ニ從ヒ慎重ナル攻堅ヲ要スルコト言フ埃タヌ隨テ一類非常ノ需要ア  
 ルニ際シテハ事實問題トシテハ常ニ絕對ニ國債又ハ租稅ノ方法ニ依ルコトヲ  
 避ク兩兩相待テ能ク其調和ヲ計リ以テ財政ノ整理ヲ期セシムルハアラサル

ナリ  
 予ハ收支適合論ノ總論トシテ國家カ財政上臨時ノ支出ヲ要シ又之ヲ填補スル  
 方法トシテ官有財産ノ拂下非常準備法租稅ノ新設又ハ増率及ヒ公債ノ借入又  
 ハ募集ヲ列擧シ遂次其概念ヲ叙述シタリ而シテ今ヤ各國ノ財政ヲ通シテ公債  
 ノ方便ヲ探ラサルハナシ而シテ前二者ハ今日ニ於テハ收支適合ノ方法トシテ  
 殆ト認メラルルコトナキニ至リ租稅ハ其主タル效果ヲ有スル經常收入論ニ於  
 テ既ニ攻究セラレタレハ是ヨリ收支適合ノ方法トシテ首要ナル公債其モノニ  
 付キ此カ概念ヲ詳述スル所アルヘシ

**第二章 公債ノ觀念**

**第一節 公債發達ノ順序**

**第一款 緒 論**

公債ハ貸財ニ關スル社會現象ナリタルヲ以テ其發達ハ又常ニ社會ノ變遷ニ隨  
 伴スヘキコト自明ノ理ニ屬ス而シテ社會ノ變遷ハ政治ニ法律ニ經濟ニ總テ備

紛糾ヲ極ムルカ故ニ公債ニ於テモ此カ沿革發達ニ至リテハ固ヨリ精確ヲ期スルコト能ハス今公債ノ起源發達ヲ通觀スルニ所謂經濟上ニ於テ實物經濟時代ト謂ヒ漁獵時代ト謂ヒ牧畜時代ト謂ヒ自然時代ト謂ヘル當時ニ在リテハ信用ノ觀念未タ發達セズ公債ノ制亦之ヲ見ルコトヲ得ナリシモ農業時代勞力時代貨幣經濟時代ニ變遷シ來ルニ從ヒ漸次其發生ヲ來シ彼ノ公私混淆セル公債特代人ニ對スル公債短期公債擔保附公債ヲ見ルニ至レリ而シテ信用經濟時代商工業時代資本時代換言スレバ現時文化ノ發達セル諸國ニ於テハ公債ハ一層急激ナル發達ヲ來シ無擔保ノ國際的永久ノ公債ヲ見ルニ至レリ公債ノ發達ニ各國ノ文化ノ異同ニ隨伴スルモノナルカ故ニ固ヨリ時代ヲ以テ絕對ノ標準ト爲スコト能ハサルモ今公債ノ債務關係ノ當事者及ヒ體裁ヲ標準トシテ公債發達ノ順序ヲ記述スヘシ

### 第二款 債務關係ノ當事者ヲ標準トスル場合

第一 債務者ヲ標準トシテ觀察スレバ元首其他主權ヲ把持スル者カ各自一私

人トシテ起債スルト國家ヲ代表シテ起債スルノ別アリ換言スレバ主權者自體カ債務者タル場合ト國家カ債務者タル場合ノ別アリ勿論前者ノ場合ト雖モ主權者ハ其債務辨濟ノ責ニ供セシカ爲メ其主權ヲ行使シテ國民ヨリ賦課徵收スルヲ以テ例ト爲スカ故ニ結局國民全般カ債務ヲ負擔スルコトト爲ルヘキモ正而ヨリ觀察スレバ其債務ノ發生及ヒ消滅ニ付キ國民カ豫メ之ヲ承認スルト否トノ別ヲ存スルモノトス 借入ノ權カ國家ニ在リ公債ノ發行ハ事實國務ノ費途ニ供セテ之レタル債務カ必ズシモ私債ト謂フヘカヲナルト共ニ主權者カ起債セル債務モ亦必ズシモ私債ト謂フヘカヲス古來元首カ起債セシ例甚タ多ク而モ其大部ハ單ニ元首自體ノ需要ヲ充タスニ過キズシテ純然タル私債ト見ルヘキモノ多キモ軍事費トシテ起債セル場合ノ如キ綜合元首一箇ノ意見ニ依リテ企テラルルモノ仍ホ其國民ヲ保護シ其領土ヲ擴張シ其國威ヲ發揚スル等公共的ノ性質ヲ帶スルモノニシテ公債タルヲ効ケサルモノアリ國家ノ觀念發達シ公私ノ別明カナルニ隨ヒ國務ノ費途ニ供セラルヘキ債務ハ元首自體ノ私債ト其間ニ畫然タル區別ヲ生スルニ至リ公債ノ大部

ハ國民ヲ代表スル議會ノ協贊ヲ經由シ所謂真正ナル公債ハ立憲國ニ於テ始メテ之ヲ見ルヲ得ヘシト云フニ至レテ故ニ債務者ヲ標準トスル場合ニハ債務者カ單一僑人トシテ起債シ公私ノ別明カナラザリシ時代ト債務者ハ國民全體ヲ代表シテ起債シ公私ノ別明カニ爲リシ時代トニ分類スルコトヲ得ヘキナリ

第二 債權者ヲ標準トシテ觀察スレバ債權者カ特定人タル場合ト不特定人タル場合ニ分類スルコトヲ得ヘシ數世紀前マテハ公債ハ常ニ特定人ニ對シテ借入レラレモノニシテ我邦維新前諸侯ノ起債セルト其趣ヲ一ニシ殊ニ伊太利獨逸等ノ諸國ニ在リテハ都市ヨリ借入レタル場合甚タ多シ所謂公債借入ノ時代ニシテ當時租稅又ハ官有財産等ノ物上擔保ヲ附スルヲ例ト爲セシニ拘ラス特定人ヨリ借入レシハ信用ノ發達幼稚ナルコトヲ證スルモノニシテ近時一方ニハ國家ノ信用遞増シテ國債ノ真相一般ノ認ムル所ト爲リ一方ニハ之ニ應スヘキ資本ノ増殖又著シク増加セシヲ以テ起債者ハ特定人ヲ指定シテ格別ニ妥協スルヲ要ス見ス政府ハ其契約ノ條件ヲ豫定シテ廣ク之ヲ

世人ニ公示シ經濟界ノ自由競争場裡ニ放任シテ需要供給ノ原則ニ從ヒ各債人ノ利己心ニ斷アルヲ以テ尼レリト爲スニ至レリ即チ從來先ツ當事者ヲ定メテ後契約ノ條件ヲ定ムルニ反シ契約ノ條件ヲ豫定シテ當事者ノ如何ヲ若クミナスニ至レリ其後不特定人ニ對シテ起債スル場合即チ公債募集ノ場合ニモ當初ニ在リテハ自國民ニ限ルコトヲ例ト爲シ所謂外國債ノ募集ハ經濟上非議スヘキモノナルノミナラス政治上絕對ニ認許スヘカラサルモノトシテ理論實際共ニ容レラルルコトナカリシモ文化ノ發達ニ伴ヒ外國債ノ必スシモ忌ムヘキモノニアラサルコト一般ニ公認セラレ領土内ノ外人ノミナラス領土外ノ外人ニ對シテモ汎ク募集セラルルニ至リタリ蓋シ公債ヲ一般人民ヨリ募集スルコトヲ得ルニ至ルハ同時ニ其國費ノ蓄來ニ比シテ著シク遞増セルコトヲ示シ又之ニ應スヘキ資金ノ豊富ナルコトヲ示スモノナリ故ニ公債ノ額ハ少クトモ其數字ノ上ニ於テ巨大ノ増加ヲ示シ一私人ニシテ又之ニ應シ得ヘキモノナラニシモアラサレトモ一局都ヨリ巨額ノ資金ヲ移轉セシコトハ經濟上喜フヘキ現象ニアラサルノミナラス又一二人ノ力巨額ノ債務

關係ニ干與スルモノハ政治上ノ弊害ヲ醸成シ易ク一般ノ人民殊ニ各種ノ階級ニ通シテ應募ノ區域ヲ擴充スルモノトハ社會問題トシテ舉ク政府ヲ進ミテ取ルヘキ方策タリ現時公債募集ノ條件中其拂込時期ノ度數及ヒ其期間一時拂込額ノ多少モ付キ大ニ斟酌ヲ加フルモノ亦此原由ニ因ルモノナリ故ニ債權者ヲ標準スル場合ニハ特定人ニ依ル時代ト不特定人ニ依ル時代ニ別ラントヲ得ヘク之ヲ其債權者ノ國籍ヨリ觀テ内國債時代外國債時代ニ分類シ又其債權者ニ對スル起債ノ方法ニ依リ國債借入時代國債募集時代ニ分類スルコトヲ得ヘキナリ

### 第三款 債務關係ノ體様ヲ標準トスル場合

第一 償還時期ノ長短ヲ標準トシテ觀察スレハ一時若クハ短期ノ場合ト永久又ハ長期ノ場合トアリ即チ往時信用幼稚ナリシ時代ニ在リテハ短期ニアラズンハ起債ノ目的ヲ達スルコト克ハサリシモ政府ノ信用遞増シ信用經濟發達スルニ隨ヒ償還期限ノ延長ハ却テ當事者雙方ノ希望スル所ト爲リ近時發

達セシ國ニ在リテハ無期ノ公債ヲ認ムルニ至レリ故ニ償還期限ノ長短ヲ標準トスル場合ニハ短期又ハ流動公債時代ト長期又ハ確定公債時代ニ分類スルコトヲ得ヘキナリ

第二 擔保ノ有無ヲ標準トシテ觀察スレハ擔保ヲ附スル場合ト擔保ヲ附セザル場合トアリ往時政府ノ信用幼稚ナリシ時代ニ在リテハ擔保ヲ以テ債務成立ノ常素トセシハ固ヨリ自然ノ理ニシテ或ハ租稅其他ノ財源ヲ以テシテ或ハ官有財產ヲ以テシテ他國ノ保證ニ依リテ對人擔保ヲ附セシ場合アリ然レトモ現時ニ在リテハ財政紊亂セル特種ノ國ヲ除キテハ皆無擔保ヲ例ト爲スニ至レリ故ニ擔保ノ有無ヲ標準トスル場合ニハ擔保附時代ト無擔保時代ニ分類スルコトヲ得ヘキナリ

此他或ハ利子ノ有無證書記名ノ有無花札ノ有無課稅物件ト爲スト否ト強制募集ノ性質ヲ有スルト否ト生産的ナルト不産的ナルト財政上行政上ノ公債ヲ認ムルト否ト等ニ由リ又幾種ノ分類ヲ爲スコトヲ得ヘキモ徒ニ枝葉ニ涉ルノ據ナキニアラサルヲ以テ之ヲ省略ス

### 第二節 公債發達ノ歴史

#### 第一款 公債ノ發生時期

公債ノ發生時期トハ上古ニ於ケル所謂公私混淆セル時代ニシテ君主諸侯ハ先ツ特定人ヲ指定シテ金額擔保期間利息等ノ條件ヲ協定シ借用證書ヲ交付セシハ前述スル所ノ如シ然レトモ固ヨリ人民ノ權利義務カ未タ充分ニ保障セラレタル時代ナリシヲ以テ附隨條件ノ變更ハ固ヨリ償還ノ義務スラ之ヲ全クセザリシコト其例多ク我國徳川家時代ノ如キモ所謂御用金トシテ無擔保ヲ以テ借入レ時ニ償還ノ義務ヲ果テザリシ者亦之ナキニアラス然レトモ原則トシテ常ニ諸侯ハ大坂ノ金主ヨリ米麥等ノ物品ヲ抵當トシテ借入レシモノニシテ其詳細ハ後ニ再述スル所アルヘシ(國家學會雜誌第三百三十七號末松博士ノ封建時代ノ財政參照)

第一期ノ末葉ニ當リテ國債ト性質ヲ異ニセル今日ノ地方債ト見ルヘキモノ又發生セリ彼ノ「マ」ク即チ市場ハ紀元第九世紀頃ヨリ漸次永久ニ開設セララル

テ例ト爲スニ至リ封建制度カ兵器ノ改良交通ノ發達等ニ由リ漸次其衰兆ヲ現ハシ地主ノ權力ハ漸次商業家ノ手ニ遷リ來ルヤ舊時ノ「マ」クハ「マ」ラ「イ」スタ「ト」即チ自由都市トシテ漸次諸侯ノ羈絆ヲ脱シ伊太利ノ諸市來因河沿岸ノ都市ハ遂ニ純然タル獨立ノ團體トシテ相割據スルニ至レリ此等ノ都市ハ當初貸財ヲ貢獻セテ自治ノ權ヲ購ヒ尙ホ時時王侯ヨリ多額ノ貢獻ヲ強制セラレ一時ノ急ニ應スル爲メ都市自ラ起債セシコトアルモ後純然タル獨立市ト爲ルニ至リテハ都市ノ費途ニ充テシカ爲メ又屢起債セリ或意味ニ於テハ今日ノ地方債ノ權輿ヲ爲スモノニシテ獨逸ニ於ケル自由市ノ市債ハ獨逸ノ統一ト共ニ多ク國債ニ變形シタリ而シテ其諸侯ニ屬スル負債ノ近時中央集權ノ實舉ルト共ニ國王ノ負債即チ國債ト變セシモノ其例甚タ多ク我邦ニ於テモ維新ノ改革ト共ニ明治六年三月第十五號布告ヲ以テ新舊公債證書發行條例ヲ制定シ明治五年申年マテノ間從來舊藩藩縣ニ於テ西國人民ヨリノ通債ヲ改メテ政府ノ公債トシ之ヲ大藏省ニ引受ケ其債主ニハ公債證書ヲ交付シ定期ヲ逐フテ之ヲ償却スル「ト」ト爲レリ此法ハ明治八年五月第九十五號布告ヲ以テ改正セラレ弘化元年



戊辰年ヨリ慶應三丁卯年マテ諸藩ニ於テ借用シタルモノハ舊公債ト稱シ明治  
 戊辰年大政更始以後明治四辛未年七月廢藩マテ及ヒ明治五壬申年マテノ間藩  
 諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ新公債トシ舊公債ハ無利息五十八年屬新公債ハ  
 四分利附二十二箇年屬トシテ之ヲ償却スルコトト爲セリ

### 第二款 公債變遷ノ時期

公債變遷ノ時期トハ耶蘇紀元十六世紀ヨリ第十九世紀ノ初期ニ至ル間ヲ指ス  
 モノニシテ公債カ王侯ノ公私ヲ混淆セシ古代ヨリ現時ニ至ル變遷時期トス此時  
 代ニ至リテハ君主私債ノ觀念除却サレ一方ニハ貨幣經濟ノ發達ヲ來セシヲ以  
 テ一般ノ信用濫増シ管理ノ方法モ序ヲ逐フテ定マリ確定公債無擔保公債等認  
 メラルルニ至レリ然レトモ前世紀ニ至ルマテ純然タル公債ノ募集ヲ實行セシ  
 ハ英吉利和蘭等數箇國ニ過キス佛蘭西ノ如キハ路易十四世ハ一世ヲ軍事ト奢  
 侈ニ盡セシヲ以テ佛蘭西革命ハ同時ニ財政上ノ革命ヲ示シ著シク公債ヲ濫増  
 セシモ皆流動國債ニ屬スルモノナリキ露西亞モ亦カザリン二世以後國費當ニ

和債ハ中央銀行ノ借入ヲ以テ一時ヲ塗抹シ今世紀ノ初ニ至リ始メテ確定公  
 債ト爲ルニ至リ一方ニハ公債委員ハ內在來ノ公債ノ整理外外國市場ニ起債ノ  
 術ニ當リ今世紀ノ三十年ニコラス第一世ノ時ニ至リ漸ク全般整理ノ諸ニ就ク  
 ニ至レリ英國ニ至リテハ其第二期ノ歴史ハ正ニ第三期ノ發達ヲ見ルモノナル  
 フ以テ次ニ併述スル所アルヘシ

### 第三款 公債發達ノ時期

公債發達ノ時期トハ主トシテ第十九世紀ノ後半ヲ指スモノニシテ此時期ニ於  
 ケル發達セル公債ハ其起債及ヒ償還ニ付キ國民力豫メ承認ヲ與フルモノナル  
 コトハ前述スル所ノ如シ即チ流動公債ノ如ク短期ニシテ其額亦比較的尠少ナ  
 ルモノニアラサル公債ハ單ニ大藏大臣ヲシテ自己ノ責任ヲ以テ自由裁量ノ餘  
 地ヲ存セシムヘキモノニアラサルヲ以テ今世紀ノ初ヨリ國家ノ觀念ノ變遷ニ  
 伴ヒ法律思想亦一變シ此起債及ヒ償還ハ之ヲ全然行政官ノ手ニ放任セス立法  
 部ノ監督ヲ要スルコトト爲レリ

講述ノ序次トシテ一言ヲ費スヘキハ我憲法ト國債ノ關係ナリトス蓋シ國債ノ募集及ヒ償還ハ彼ノ租税ノ新設又ハ増率ノ如ク公法上ノ關係ニアラスシテ純然タル私法上ノ法律行為ナリ單ニ一ノ行政行為ナリ隨テ法理上毫モ法律ヲ以テ規定スルノ要ヲ見ルコトナシ我憲法第六十二條第一項ハ一方ニ新ニ租税ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

ト言ヒテ法律ヲ以テスヘシト言ハサルハ即テ之カ爲メナリ隨テ今日マテノ實例ニ於テ常ニ法律ニ依ルハ憲法當然ノ結果ニアラザルト共ニ又國債ノ性質ニ於テ毫モ爲メニ變易セラルル所ナキハ言ヲ竣タス國債ノ募集ニ付テハ唯議會ノ協贊ヲ經ルヲ以テ足レリトス隨テ公安ヲ保持スル爲メ緊急ノ需要アル場合ハ憲法第七十條ニ依リ此制限ヲモ踰越スルコトヲ得ヘシ日清事件ニ於ケル軍事公債ノ如キハ即チ第七十條ニ依ル財政上必要ノ處分トシテ議

會閉會中募集セラレシモノナリ國債ノ募集又ハ償還ニ付キ法律ヲ以テ規定スルハ單ニ國債ノ募集又ハ償還ナル私法行為ヲ爲スコトヲ政府ニ委任セルコトヲ表ハスニ過キス唯其同時ニ規定セル契約ノ豫定條件等ニ於テ法律ニ依ルノ結果トシテ普通ノ私法ト異ナル規程ヲ設定スルコトヲ得ヘキハ復タ君ヲ竣タサル所ナリトス

上述スルカ如ク國債ノ募集又ハ償還ニ付テハ必スシモ租税等ノ公法上ノ行為ト異ナリテ立法事項ト爲スコトヲ要セザルモ其金額ノ巨大ニシテ且ツ其期限モ長期ニ屬スルモノハ政府ノ財政上率ラハ一國ノ經濟國民ノ負擔ニ重大ナル利害關係ヲ有スルモノナルヲ以テ議會協贊ヲ經ヘキモノトセリ即チ國債其モノノ真相カ形式上ニ於テモ明カニ認知セララルル所以ニシテ一方ニハ國債ノ濫用ヲ防遏スルト共ニ一方ニハ國債其モノノ信用ヲ著シク擴充セラルタルモノト謂フヘキナリ

英國ハ前世紀ヨリ既ニ公債ニ付テ十分ノ發達ヲ示セリ「ラレンデ」公「キリヤ」  
 「カ」ス「チユ」アルト朝ノ餘弊ヲ承クテ財政困難ノ機ニ際スルヤ公債ノ募集

ニ付キ之ヲ議會ニ提出セテ其承諾ヲ求メ爾後常ニ一國債ヲ起ス毎ニ法律ヲ以テ其手續ヲ定メ仲給方ノ大ナル所得稅ヲ以テ此公債還ノ擔保ニ充テ時宜ニ應シテ之ヲ増減シ其募集ノ手續事務ノ取扱等ハ一英國銀行ニ委任セタリ其詳細ハ別ニ公債募集ノ章ニ於テ述フル所アルヘシ又其償還ノ方法ニ付テハ所謂減債基金法ヲ取ルモノニシテ其可否如何ハ又別ニ公債償還ノ章ニ譲ルヘシ之ヲ要スルニ英國ハ公債ノ歴史ニ於テハ最早發達セル國ニシテ所謂立憲國ニ於テ始メテ見ルコトヲ得ヘキ真ノ公債ハ其權輿ヲ英國ニ發セリ而シテ實際ニ於テモ英國ノ公債ノ歴史ハ其減債基金法ニ依ル等ノ爲メ多少ノ非難ヲ受ケサルニ非サルモ歐洲列國ニ於テ好況ヲ呈スルモノニシテ千八百二十年頃ハ其利子支拂額三千二百五十萬磅ニ上リ國費總額ノ五分ノ三ヲ占メシモ千八百五十二年ニハ遙ニ下リテ二千八百萬磅ト爲リ千八百八十六年ニ至リテハ二千二百萬磅ト爲リ國費總額ノ三分ノ一ヨリ四分ノ一ノ間ニ下ルニ至リ其公債總額ノ如キモ千八百八十年ニハ三十六億弗ニ近カリシモ千八百九十年ニハ三十三億弗餘ニ減スルニ至レリ

佛蘭西ノ公債ニ對スル政策ノ概要ハ租稅ト公債ノ一節ニ於テ前述セルカ如シ殊ニ普佛戰爭後九十億フランシノ募集ヲ爲セシヨリ公債ノ額ハ次第ニ増加シ千八百八十年ニ四十二億餘弗ナリシモ千八百九十年ニハ四十四億八千萬弗ニ上リ其利子支拂額ハ千八百二十年ニハ一億四千八百萬馬克ナリシモ千八百八十二年ニハ七億九千萬馬克ニ増加セリ公債負擔ノ分頭額ニ於テモ其總額ト等シク列國中第一位ヲ占ム然レトモ是レ單ニ財政上ノ措置ノ誤レルノミナラス政治上ノ原因多キヲ占ムルヲ以テ絕對ニ非議ヲ容ルヘカラサルカ如シ且ツ其公債ノ募集ニ付テ大ニ國民的觀念ヲ交ヘ成ルヘク其一時拂込額拂込期限等ヲ斟酌シテ總テノ階級ニ通シテ應募ノ便ヲ計リ中産以下ノ者ヲシテ貯蓄ノ觀念ヲ養成セシメ大ニ社會問題ノ融和ヲ圖ルハ喜フヘキ趨勢ニシテ我邦ノ如キモ亦此主義ヲ執ルモノノ如シ唯今日佛蘭西ノ公債カ既ニ其總額ニ於テ又分頭額ニ於テ第一位ヲ占メ今後尙ホ増加シテ止マザルハ慨嘆スヘキ事ナレト共ニ之ヲ伊太利奧太利露西亞等ニ比シ尙ホ幾層ノ好望ヲ繫クヘキ理由ノ存スルアリ一ハ其國民的募集方法ヲ實行スルコトヲ得テ未ダ撲滅ノ如ク肉國ニ於テ殆ト

募集ノ實ヲ舉クルコトヲ得サルコトヲ得タル如キ窮乏ニ陥ラサルコトナリ  
 ハ將來私設鐵道ノ漸次國家ノ所有ニ歸屬スルニ因リ其官業收入ニ依リ著シク  
 公債額ヲ削減スルコトヲ得ヘキコト是ナリ其好實例ハ次ニ掲タル普瀋西ノ公  
 債ニ於テ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ

普瀋西ノ公債ハ英國ト並立シテ最モ好況ヲ呈スルモノナリ即チ千八百四十八  
 年ニハ其公債總額一億五千八百五十萬ターレムニシテ歐洲列國ニ比シ其額僅  
 少ナルモノナリシモ一千八百六十六年ニ至リテ二億九千萬ターレムニ増加セ  
 リ然レトモ此増加ノ比例ハ他國ニ比シテ小ナルノミナラス其増加額一億三千  
 百五十萬ターレム中一億二千四百三十三萬ターレムマテハ官設鐵道ノ敷設ト  
 私設鐵道ノ買上ニ支辨セラレタルモノナリ蓋シ普瀋西公債ノ募集上他國ト異  
 ナルハ國有財産ヲ以テ抵當ニ充ツルニ在リ其國有山林田地並ニ鐵道ノ收入ハ  
 國庫ノ收入ノ三分ノ一ヲ占メ優ニ公債ノ利子支拂元金償還ノ支途ニ充テテ餘  
 アルニ至レリ其統計ノ概表ハ次ノ如シ

年次	人口	公債額	利子支拂額	國有鐵道ノ純支拂額
一八八二	百萬	二七三	一〇七六	二四一九
一八八七	百萬馬克	二八三	一六一一	二〇一七
一八八九	百萬馬克	二九三	一六五六	二七八六

上述ノ如キ好景ヲ呈スルヲ以テ獨逸ノ公債ハ三分半ノ利附ニテ平價ヲ維持セ  
 ン

奧太利ノ公債ハ紙幣公債、銀貨公債、金貨公債等ノ諸種ヨリ成リ貨幣ノ價格區區  
 ナルヨリ公債ノ募集モ貨幣ノ種類ニ依リテ自ラ其間ニ異同ヲ生シ今日ニ於テ  
 ハ五分利附ニテ猶ホ平價ヲ持スルコト能ハス其公債モ千八百八十年ニハ二十  
 二億二千餘萬弗ナリシモ千八百九十年ニハ二十八億六十餘萬弗ニ増加シ千八  
 百二十年ノ利子支拂額ハ三千百萬馬克ナリシモ千八百八十二年ハ三億九千  
 五百萬馬克ニ遞増セリ

露西亞モ亦前述スルカ如ク正金公債、紙幣公債アリ紙幣ノ價格ハ漸次下落シ今  
 日ハ公債委員ノ制ヲ設ケ外國債ニ依リテ漸ク財政一時ノ整理ヲ濟スモノノ如

シ我公債額モ千八百八十年ニハ三十三億餘萬弗ナリシモ千八百九十年ニハ三十五億弗ニ近ツキ其利子支拂額ノ如キモ千八百二十年ニハ二千三百萬馬克ナリシモ千八百八十二年ニハ六億四千萬馬克ニ遞増スルニ至レリ其不換紙幣發行ニ基ケル財政ノ非況ハ埃佛伊諸國ノ實例ト共ニ公債分類ノ章ニ於テ述ブレ所アルヘシ

以上講述スル所ニ據リ公債ノ發達ニ對スル沿革變遷ノ梗概ヲ示セリ即チ公債ノ實ニ前世紀ノ末葉ニ始マリ今世紀ニ於テ著シク發達ヲ見即チ千八百二十年ニ在リテハ歐洲列國ノ公債ノ利子ニ支拂フ所十一億二千五百萬馬克ニ過キテリシモ千八百六十五年ニハ正ニ之ニ倍シ千八百八十五年ニハ四倍ニ上リ其公債總額千〇八十四億三千百萬フランシテ巨額ヲ見ルニ至レリ今年度ニ依リテ公債增加ノ統計ヲ見ルニ次ノ如シ

年 度	公債元金
一七一一	一五億弗
一七二四	二五億弗
一七九三	二五億弗

一八二〇	七七五
一八四八	八六五
一八六二	一二七五
一八七二	二二二〇五
一八八二	二六九七

尙ホ最近ノ調査ニ係ル歐米各國ノ公債總額利子額及ヒ其各分頭額及ヒ明治二十六年度ヨリ三十年度ニ至ル我國ノ國債地方債及ヒ政府紙幣ノ數額ヲ示セハ次ノ如シ

國 名	公債總額	分頭額	公債利子額	分頭額
佛 國	一,三三四七,七四三,〇〇〇	三三,五二〇	五〇,三三〇,〇〇〇	一六,六一
英 吉 利 本 土	六,三三八,二六六,四八二	一五,一七八	二五,〇〇〇,〇〇〇	一二,二五
伊 太 利	四,九一七,六七三,〇〇〇	一五,一一六	二二,九八五,五六五	一四,九

露西亞	四二,七九二,〇〇〇	三,一九七	一八,〇一五,九〇〇	三,五
合衆國	三六,〇七四,二六〇	五,一五二	一五,五四八,〇〇〇	二,五
西班牙	二八,四〇〇,〇〇〇	一六,三四	一五,九七〇,〇〇〇	一,八〇
匈牙利	二六,〇四九,五〇〇	一,一六,六	一三,二八〇,〇〇〇	一,三
奧地利	二四,五〇,〇〇〇	五,一八六	一〇,五二四,〇〇〇	五,一
土耳其	一五,七〇三,八四〇	六,一九五	二,〇三三,一〇〇	一,一〇
葡萄牙	一七,〇二六,〇〇〇	二,五三〇	四,二〇九,一〇〇	一,六八
奧地利	一三,五八五,七〇〇	五,二五	六,二一五,〇〇〇	五,二
希臘	一三,〇六二,〇〇〇	二,三三	六,六九三,〇〇〇	二,六
白耳義	一〇,二一六,三七〇	一,五二,八	四,六六六,一〇〇	一,三
和蘭	九,一二八,〇〇〇	一,八五五	二,七二〇,三〇〇	一,一
日本	四,一〇,三三,五一一	一,九三	二,九〇〇,五〇〇	一,四
希臘	二,〇〇〇,〇〇〇	八,二二三	一,〇〇〇,〇〇〇	八,二
瑞典	一五,九七一,三〇〇	三,四〇	五,三八〇,〇〇〇	一,三

丁抹	一一,五六六,二〇〇	五,五一〇	四〇,五五六,三	三,八
諾威	一〇,〇七四,四〇〇	五〇,八	三,七五〇〇	三,三
瑞西	三,三五五,七〇〇	一,一〇,九	一,六九七,三〇	一,一
總額	四七五,三九四,三五九五		一九二,五九二,三三五八	

●日本公債統計表

年 度	國 債	分頭額	政府紙幣	分頭額
三十年度	四二,一,二四五,九二八	九,七四	六,九九五,三三三	一,六
二十九年度	三八,三,三三五,一三四	八,七七	九,〇四五,〇八一	二,一
二十八年度	三七,一,七五九,九九五	八,七七	一〇,六七九,二三六	二,五
二十七年度	二九,五八〇,七二八三	七,〇七	一二,七九三,八三五	三,〇
二十六年度	二六,七八一,四八五一	六,四七	一五,七〇四,七七三	三,七
一年六年度	國債政府紙幣合計	分頭額	地 方 債	國債政府紙幣及地方債
三十年度	四二,八二四,一三〇,一	九,九〇	一四,一五三,三七六	四,四二,三九四,六七八
二十九年度	三九,二三八〇,二二六	九,一八	一〇,九一六,七九〇	四〇,三二九,七〇〇七

二十八年度 三八、四三九、三一一 九〇四 一〇、三二八、一一一 三九、二六七、〇四二  
 二十七年 度 三〇、八六〇、一一九 七三八 一〇、〇六二、九一三 三一、八六四、〇三三  
 二十六年 度 二八、三五一、九六二 四六八五 九、一六七、〇四七 二九、二六八、〇〇〇

第三節 公債發達ノ原因及條件

第一款 公債發達ノ原因

第一項 消極的原因—國家觀念ノ一變

封建制度廢廢シテ中央集權ノ行ハルルヤ經濟學派ニ於テモ歷史派勃興シ從來ノ放任主義ノ反動トシテ、リスト、如キ國家主義ヲ唱道シ法律學派ニ於テハ自然法學派破レテ歷史法學派勃興シ公法ノ觀念發達シ文化ノ普及ト共ニ國家ノ政務ハ頓ニ廣キヲ加フルニ至レリ即チ國家ハ管ニ消極ニ人民ノ危害與危ヲ除去スルニ止マラス積極ニ人民ノ幸福安寧ヲ増進スヘキモノナリトシ殊ニ近時社會問題ノ影響トシテ國家社會主義ヲ鼓吹スル者相次キ國家ハ一方ニハ恤政行政ノ範圍ヲ擴張シテ貧民救助法強制保險強制教育貧民貯蓄法等下級人民ノ

保護改善ノ策ヲ盡シ一方ニハ社會一部ノ階級ヲシテ重大ナル權力ヲ獨占セシメテラシメシメカ爲メ公共的の事業ニシテ利害關係ノ重大ナルモノハ之ヲ政府ノ手裡ニ收ムル等國家萬般ノ行政著シク多キヲ加フルニ至レリ殊ニ近時各國經費ノ大部分ヲ占メ財政ノ經營上重大ナル關係ヲ有シ公債ト相聯絡シテ朝野ノ人士ヲシテ此カ措置ニ頭顱ヲ悩マケシムルモノヲ軍事費ト爲ス蓋シ佛蘭西革命カ自然法ヲ打破シ放任主義ヲ屏去セシメ人權主義ヲ攘廢シ歸納的歷史的學派ノ勃興スルト共ニ中央集權ノ實學ルヤ忽チ那破翁一世霸ヲ稱ヘテ歐洲ヲ蹂躪シ軍旗ノ向フ處列國ヲ席卷シ中道ニシテ霸業地ニ墜ツルヤ國民的觀念到ル處ニ勃興シ軍事上ノ設備維持ノ爲メ鉅萬ノ費ヲ投シ列國互ニ相對峙シテ權力ノ平均ハ軍器ノ改良兵員ノ増加ヲ促シ益其費額ヲ遞増スルニ至レリ是レ國家ノ歳出ハ年年歳歳増加スルニ反シ國家ノ歳入ハ比較的之ニ隨伴セラル所以ナリトス

國家觀念ノ一變ハ一方ニハ國家其モノノ信用ヲ鞏固ト爲スト同時ニ一方ニハ國家ノ經費ヲ著シク増加スルニ至レリ而シテ其經費ノ種目ニシテ公債ノ



必要ヲ増加セシムル重ナルモノハ一、國防費及ヒ戰事費ニシテハ農工商ノ起業費ニシテ所謂消費公債及ヒ起業公債ナルモノカ公債ノ殆ト全部ヲ占ムル所以ノモノ又此原由ニ存ス今歐米五大強國ノ歲出ニ關スル統計ヲ示セハ左ノ如シ

年	國	英	吉	利	佛	蘭	西	露	西	亞	普	滿	西	合	衆	國
一八四〇	歲出	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入
	總額	九、五〇	三、三〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
一八五〇	歲出	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入
	總額	九、〇〇	三、〇四	八、五九	一、九三	三、一〇	六、七四	四、〇三	四、六	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
一八六〇	歲出	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入
	總額	三、三四	一、二五	三、六五	九、八七	二、四	三、〇六	九、三	五、一六	七、七	二、四	五、一	五、一	五、一	五、一	五、一
一八七〇	歲出	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入
	總額	三、三七	一、〇八	四、〇一	〇、八	三、四	四、五九	一、二七	五、三〇	三、〇九	八、〇〇	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八
一八八〇	歲出	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入	國民一入
	總額	四、〇七	一、六二	六、三二	六、八一	四、四五	五、二九	一、七八	六、六〇	二、六七	五、三四	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八

第二項 積極的ノ原由—經濟界ノ進歩

經濟ノ發達カ亦等シク今世紀ニ在ルハ世人ノ周ク認知スル所ナリ經濟上所謂資本時代ト云ヒ商工業時代ト云ヒ信用經濟時代ト稱セラルル時期ニ在リテハ資本ノ憑増ハ此カ投下ノ途ヲ需ムルニ至リ公債ニ依リ此等ノ資本ヲ活用シテ國家ノ事業殊ニ生産的ノ事業ニ投下スルハ管ニ國家自體ニ於テ得策タルノミナラス又資本ヲ有スル者ノ却テ期望スル所タリ即チ人民カ國家ノ手ニ依リテ其資本ノ増殖ヲ計ルコトヲ得貯蓄ノ一便法トシテ經濟上政治上好箇ノ方策タルモノナリ況ヤ信用經濟時代ニ在リテハ經濟上ノ活動ハ益々敏活繁雜ヲ極メ貨幣ハ價格ノ標準トシテ其效果ヲ失ハサルモ交換ノ媒介トシテハ融通上信用ノ方便ニ其途ヲ讓ルニ至リ公債證書ハ好箇ノ媒介物トシテ他ノ有價證券ト共ニ融通上缺クヘカラサル位置ヲ占ムルニ至レリ殊ニ近時無記名ノ公債證書ヲ認ムルニ至リテハ其效果亦貨幣ニ讓ルナク動産ト同一ナルモノト看做セルハ各國ノ法制ニ通シテ既ニ明文ノ認ムル所タリ

第二款 公債發達ノ條件

### 第一項 金融市場ノ發達

金融市場ノ發達ハ所謂經濟界ノ進歩ヲ現實ニ公債ノ方面ヨリ觀察セルモノニシテ其發達ノ要素ハ

- 甲 資本ノ供給豐饒ナルコト
- 乙 資本ヲ運轉スル制度組織ノ發達セルコト
- 丙 資本ノ生産ノ利用ノ勵念發達セルコト

ノ三點ニ據リ成立シ金融市場ノ發達ハ能ク資本ノ流通ヲ助ケ古代ノ如ク資本ヲ集合離散スル機關具備セス又資本ヲ有スル者モ文化幼稚ニ屬シ交通發達セズ信用ノ不備ナルヨリ徒ニ之ヲ庫中ニ藏匿スルカ如キコトナク資本ハ國內ニ縱橫運轉セララルノミナラス經濟界ハ交通ノ發達ト共ニ世界列國ヲ打シテ共同ノ潮流ニ投センノ資金ハ國際間ヲ通シテ循環セラレ倫敦市場ニ現ハラル形式ノ數ハ其數三百種ヲ超ニ其取引年額亦百億ヲ昇ルニ至レリ

### 第二項 一國信用ノ增加

一國信用ノ增加カ公債募集上重大ナル條件ナルコト復タ言フ埃タス蓋シ往時信用ノ幼稚ナル時代ニ在リテハ短期公債モ對物擔保ヲ附セテ猶ホ此カ奏效ニ困難ヲ感セシハ前述スル所ノ如シ今日ニ在リテハ國家組織ノ一變文化ノ普及ハ公債其モノノ性質ヲモ一變シ此カ債務關係ニ於ケル權利義務ノ復タ法令ノ保障スル所ト爲リ殊ニ立憲國ニ在リテハ公債ノ募集發達ハ議會ノ承認ヲ經ルヲ例ト爲スニ至リシヲ以テ國家ノ信用益々厚キヲ加フルニ至レリ今少シク之ヲ詳述スレハ一國信用ノ要素ハ

- 甲 公債償還ノ實力アルコト
- 乙 公債償還ノ意思アルコト
- 丙 公債ニ關スル行政制度ノ完備セルコト

ニ據リテ成立シ而シテ其公債償還ノ實力ハ國民ノ富榮ト財政ノ整理トニ基因シ殊ニ公債ノ償還及ヒ利子ノ支拂ニ必要ナル租稅制度宜シキヲ得ハ財政ノ整

理ニ於テ一層ノ信用ヲ増加スヘキコト論ナキナリ其他公債ニ關スル過去ノ財政歴史即チ往來募集セシ公債ノ額ノ多少及ヒ其經過ノ如何ハ亦信用ニ至大ノ影響ヲ與フルモノタリ

公債償還ノ意思ハ國家自體及ヒ國民ノ良心及ヒ名譽心ノ強弱ト主トシテ公法ノ規定如何ニ因リテ消長セラルルモノニシテ一箇人ノ場合ニハ此要素缺乏スルトキハ國家命令權ノ作用ニ由リ法制上此カ救濟手段ヲ設ケラルルモ國家ニ對シテハ外人カ自國政府ノ力ヲ假リテ國際法上ニ訴フル場合ノ外ハ殆ト法制上此カ救濟手段トシテ強制力ノ存在ヲ認ムルコトヲ得サルモノナレハ國家信用ノ債務成立ニ必須ノ要素ナルコト復タ一私人ノ場合ノ比ニアラサルナリ

此他尙ホ國民的觀念モ亦隱然公債募集ノ一條件タリ例ヘハ今内外公債ノ同時ニ募集セラルル場合ニ於テ其經費努力危險ノ負擔等ヲ對照シ結局外國債カ多少利益大ナルヘシト思料セラルル場合モ國民的觀念ノ利己心ニ克テテ内國債ヲ選擇スルハ事實ニ於テ見ル所ニシテ殊ニ戰時等ニ在リテハ國民的觀念ヲ刺激スルコト大ナルヲ以テ他ニ有利ノ事業アルモ之ヲ捨テ又在來投下セル資本

ヲ回收シテ多少ノ比較的損害ヲ甘ンシ公債ノ募集ニ應スルモノトス彼ノ愛國公債ノ如キハ此極例ヲ示スモノナリトス

國家ノ信用カ發達スルニ至リシ原由ハ前ニ一言セル國家ノ觀念ノ一變ナリ尙ホ現實ニ之ヲ國民ノ側面ヨリ説明スレハ國民ノ權義ノ保障ニ在リ極言スレハ國民ノ起債ニ應スルハ感情ニ依ルニアラス愛國心ニ出ツルモノニアラズ自己ノ權義カ明カニ法規ノ保障トスル所ト爲リ債務者タル國家ハ其實自己カ監督スル共同團體ナルカ故ナリ封建制度ノ頽廢ハ地主ノ權力ヲ剝奪シテ實本家ノ全能時代ト爲リ資本家ノ權利自由カ最も優勢ナル勢力ヲ造リ立憲政治ノ下ニ於テハ債權者タル資本家ト債務者タル國家トハ同一體ニシテ單ニ法律上ノ資格ヲ異ニスルニ過キサルニ至レリ是レ立憲政治ノ最も早ク進歩セル英國ニ於テ著シク早ク公債ノ發達ヲ見ルニ至リシ所以ニシテ又其ニ發達セル公債カ獨リ立憲政體ノ下ニ於テ之ヲ見ルヲ得ヘシト云フ所以ナリ

第四節 公債ト私債

財政學 資本主義論 公債ノ觀念 公債ト私債

私法上ノ契約ヲ以テ成立スル債務タル點ニ於テハ公債モ私債モ共ニ相同シ其異同ノ生スルハ其債務ノ體様ニ於テ存ス而シテ其區別ノ根本ノ基礎ハ一ニ私人經濟ト公共經濟ノ別ニ在リ換言スレバ私人經濟ハ入ルヲ計リテ出ツルヲ制スルニ反シ公共經濟ハ出ツルヲ計リテ入ルヲ制スルニ在リ私人經濟ハ常ニ收入ノ多寡益大ナラシムコトヲ勉メ其收入ヲ標準トシテ支出ノ程度ヲ算定シ其收入ノ一部ヲ貯蓄シテ以テ私債ヲ起スノ患ナキコトヲ期ス公共經濟ハ常ニ國家ノ經費トシテ其必要ノ有無程度ヲ定メテ之ニ應ズルノ收入ヲ算定シ唯收支ノ相適合センコトヲ期スルニ在リ故ニ支出ノ收入ニ超過スルコトヲ避クヘキト共ニ收入ノ支出ニ超過スルコトモ亦等シク之ヲ避クスルハアラズ今其相異ナル點ニ付キ其重ナルモノヲ列舉スレバ左ノ如シ

第一 公債ハ其存在ヲ原則トシ私債ハ其存在ナキヲ原則トス

公共經濟ト私人經濟ノ區別ノ大要ハ上述スル所ノ如シ隨テ私人經濟ニ在リテハ常ニ支出ヲ收入ノ一部ニ止メ常ニ餘利ヲ貯蓄シテ以テ不時ノ需要ニ應ズルノ準備ヲ爲スヲ原則トス隨テ私債ハ此カ發生ヲ以テ例外ト見ルヘキト共ニ公

共經濟ニ在リテハ常ニ收支相適合センコトヲ計リ收入ノ支出ニ超過スルコトヲ避クルヲ以テ事實收支ニ適合ヲ期シ難キ丈ニ公債ヲ起スヘキ機會必要ハ私債ノ場合ト全ク正反對ニ出テ原則トシテ常ニ之ヲ期スヘキモノナリ勿論政府モ私人ノ如ク其財產ヲ賣却スルコト難キニアラサルモ官有財產拂下ノ臨時支出填補ノ手段トシテ不可ナルヲトシ第一章ニ於テ述ヘタルカ如ク經濟上非議ヲ入ルヘキノミナラス政治上亦喜フヘキモノニアラス又事實迅速ヲ要スヘキ巨額ノ需要ニ應ズル能ハサルヲ例ト爲シ現時ニ於テモ唯財政紊亂シ信用薄弱ナル國ニ於テ已ムナク此窮策ヲ執ルヲ見ルコトアルノミ其他特許其他ノ保護ヲ與ヘ其代償トシテ收入ヲ得ルコトアルモ其害毒ノ財產拂下ノ場合ニ比シテ却テ勝ル所アルハ復タ言フ接々タル所ナリトス而シテ非常準備法及ヒ租稅政策ニ依ルノ可否ニ付テハ亦第一章ニ於テ既ニ詳述シタル所ナルヲ以テ究極公債ハ其存在ヲ原則ト爲スヘキコト理論上ニ於テ其不可ナルヲ見サルノミナラス復タ事實ニ於テ各國財政史ノ等々々證スル所ナリ

第二 公債ノ償還ハ收入ノ増加ニ依ルヲ原則ト爲シ私債ノ償還ハ支出ノ減少

一 依ルヲ以テ原則ト爲ス債權ニ對シテ是等ノ取柄ヲ爲シテ其ノ支出ノ額ニ對シテ公債ノ償還ニ在リテハ收入ヲ増加シ或ハ財産ノ賣却等ニ依ルコト固ヨリ難シト爲サザルニ其支出ノ減少ニ依ルコト原則トシテ認メラルル所ニシテ又比較的容易ナルモノト謂ハスルハアラズ之ニ反シテ公債ニ在リテハ官業收入ノ増加ハ固ヨリ強制的ノ性質ヲ有スルコトナク私人ノ營業ニ過キサルヲ以テ固ヨリ公債ノ償還ニ充ツルニ足ラス財産ノ賣却ノ不能不可ナルハ亦上述スル所ノ如シ而シテ經費ノ節減ハ又以テ公債償還ノ資ニ充ツルニ足ラス通常ノ歳入ハ通常ノ費途ニ充テ通常ノ費途ハ公債費ニ於テモ官有財産ノ設備維持費ニ於テモ文武行政事務費ニ於テモ既ニ政府カ必要ナリト認定シタル經費ナルヲ以テ固ヨリ此ニ對シテ非常ノ削減ヲ加ヘンコトハ不能ノ事理ニ屬スルモノナリ隨テ新公債ノ起ル毎ニ此カ填補ノ途ハ常ニ新稅ノ設定又ハ舊稅率ノ増加ニ依ルノ外ナキヲ原則トス即チ公債ノ償還ハ常ニ強制的收入ノ増加ニ依ルモノニシテ私債ノ場合ハ如ク容易ナルモノニアラザルナリ

第三 違約ニ對スル債權者ノ救濟手段ハ私債ノ場合ハ十分ノ保障アルモ公債

ノ場合ニハ十分ノ保障ヲ受クルコトナシ

私債ノ場合ニ在リテハ其條件期限利率等ノ變更又ハ償還ノ有無ニ付キ債權者ノ合意ヲ經ス不法ニ違約スルトキハ法令ハ債權者ノ權利ヲ保障シテ司法ニ行政ニ債務者ノ破産ヲ限度トシテ此カ救濟手段ノ完備ヲ期スルモノナリ之ニ反シテ公債ノ場合ニハ第一期第二期ノ時代ニ於テ固ヨリ實力關係ニ依リ不法ニ違約シテ之ヲ強行スルモ又之ニ對シテ救濟ヲ求ムルニ由ナク近時立憲制度ノ下ニ於テモ議會ノ協贊ヲ經ルトキハ債權者ノ合意ヲ缺タスシテ此カ變更ヲ試ムルコトアリ此場合ニハ唯政治上道徳上非難ノ餘地ヲ存スルニ止マリ法律上復タ此カ救濟ノ手段ヲ缺クモノタリ外國債等ノ場合ニ於テモ外交問題ニ關聯シテ事實此カ變更ヲ抑制スルコトアルモ固ヨリ法律上ノ問題ニアラス近時列國皆自己ノ信用ノ鞏固ヲ圖リ溢ニ此等ノ窮策ヲ執ルコトナキモ時ニ其實例ヲ見出スコトナキニアラス其詳細ハ別ニ公債償還ノ章ニ於テ再述スル所アルヘシ

第四 公債ノ成立ハ募集ノ方法ニ依ルヲ原則トシ私債ノ成立ハ借入ノ方法ニ

依ルヲ原則トス。其額固ヨリ巨大ナルヲ以テ之ヲ特定セル私人ヨリ借入ルルコトハ經濟界ニ及ホス影響大ナルノミナラハ幾多ノ弊害其借入ニ附帶シテ發生スルコトハ固ヨリ言フ埃タサル所ナリトス隨テ信用ヲ發達セル現時ニ在リテハ政治上經濟上ノ理由ヨリ政府ハ單ニ一定ノ條件ヲ示シテ一般ヨリ募集スルノ制ヲ執ルコトヲ原則トシ社會問題ニ關聯シテ其募集方法ニ付キ成ルヘク應募者ノ種別範圍ヲ擴充セントスルノ趨勢アルコトハ前述ノ如シ或學者カ公債私債ノ區別ノ一トシテ債權者ノ數ノ多少ヲ舉ケ又ハ證書面ノ金額ト實際ノ借入高ノ相異ナルコトヲ舉タルモ亦之ニ伴フ結果ノ一端ヲ表彰セシモノニシテ却テ弊キニ失セルモノナリ募集ノ場合ニ於テハ其募集條件ノ輕重ト金融市場ノ繁閑ニ由リ需要供給ノ原則ニ支配セラレテ拂込高ノ額面高ヲ上下スルハ固ヨリ言フ埃タス而シテ此募集方法ハ近時私債中法人ニ屬スルモノニ在リテハ又履行ハルル所ニシテ通常社債ト稱セラルルモノノ外普通ノ借入ニ於テモ額面高ト借入高ト相異ナルコト稀ナリトセス利子制限法ノ拘束ヲ遁レンカ

爲メニスル所謂高利貸ノ輩ノ如キハ姑ク之ヲ問ハストスルモ彼ノ英國ノ如クドブ例ノ如キハ額面高ト借入高ト相違ナルヘキコトヲ原則ト爲スモナレムナリ

第五 公債ハ償還期間長ク利子低ク擔保ナキヲ原則ト爲スモ私債ハ償還期間短ク利子高ク擔保ヲ要スルヲ原則トス。其額ニ關シテ則チ公債ノ擔保ニ關シテ國家ノ私人ニ比シテ信用ノ大ナルハ言フ埃タス永久ノ生存ヲ爲スヘキ國家ニ在リテハ其債務ノ永續ハ却テ債權者ノ希望スル所ニシテ近時信用ヲ發達セル政府ニ在リテハ漸次無期ノ公債ヲ認ムルニ至レリ利子ニ於テモ信用ノ大ナル公債カ私債ニ比シテ低キコトハ又自明ノ理ニ屬シ時ニ無利子ノ場合亦少ヤト爲ナス強制公債ノ一種ト看ルヘキ不換紙幣ノ如キ是ナリ但シ不換紙幣ハ信用其モノノ厚薄ノミニ依リテ消長スルモノニアラサルハ論ナシ終ニ擔保ノ如キ私債ノ場合ニ在リテモ對人信用ノ外ニ居常ノ情實ヨリ無擔保ノ場合少シト爲サナレトモ通常特種ノ關係ナキ者ノ間ニ在リテハ擔保ヲ以テ成立ノ一要素ト看ルコト原則タリ

國債ト曰ヒ公債ト曰フ固ヨリ其間ニ畫一セル限界ノ存スルニハアララス唯此ニハ公債ヲ以テ政府其他公共團體ノ債務ヲ總稱スルモノトス即チ國債及ヒ地方債ヲ併稱シテ公債トス地方債ノ如何ナルモノナルキニ付テハ公債償還ノ章ニ次キヲ別ニ一言スル所アルヘシ

### 第三章 公債ノ分類

#### 第一節 緒論

公債ノ意義ハ學說實際共ニ區區ニ岐レテ一定スル所アルナク最狹義ニ解釋スル者ハ所謂確定公債ノミヲ以テ公債ト稱シ狹義ニ解釋スル者ハ流動公債ヲモ併セ認ムルモ單ニ短期借入短期公債ノ類ニ限ラレ廣義ニ解釋スル者ハ廣ク財政上ノ公債ヲ總稱シテ公債ト曰ヒ最廣義ニ解釋スルモノハ財政上ノ公債ニ行カ是非ヲ論斷スヘキモノモアラザルコト言フ俟ダズ唯一般ニ慣用セラルル公債ノ字義ハ事實トシテ狹義又ハ廣義ニ限ラレ最廣義ノ公債ノ特色タル行

上ノ公債ト稱セラレルモノニ至リテハ嚴重ニ解釋スレハ公債論トシテモ又收

支適合論トシテモ之ヲ論述スヘキ限ニ在ラサルモ國庫收入ノ一種トシテ之ヲ

研究スルニ付キ本章ニ於テ述ワルヲ最モ便ト爲スヲ以テ茲ニハ最廣義ノ公債

ニ就キ之ヲ各種ノ方面ヨリ分類シ逐次之カ概念ヲ叙述スル所アルヘシ

#### 第一 公債募集ノ原因ヲ標準ト爲ス分類

##### 甲 非常公債

##### 乙 平常公債

###### 一 財政上ノ平常公債

###### 二 經濟上ノ平常公債

###### 三 行政上ノ平常公債

#### 第二 債權者ノ國籍ヲ標準ト爲ス分類

##### 甲 外國債

##### 乙 內國債

#### 第三 公債募集ノ方法ヲ標準ト爲ス分類



甲 強制公債、其由は、國家ノ爲メ、公債ニ付テハ、ノリニ付テハ、ハラスルハ、  
乙 間接強制公債、其由は、  
丙 借入金直接強制公債、其由は、

一、  
二、  
三、

乙 任意公債、平常公債

一、愛國公債、平常公債

二、契約公債、平常公債

三、特別借入、平常公債

第四、公債ノ性質ヲ標準ト爲シ、分類シ、  
甲、流動公債、平常公債  
乙、一、行政上ノ流動公債、平常公債

二、  
三、  
四、

二、  
甲、  
乙、  
丙、  
丁、

乙、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、

定期公債、  
定期一時支拂公債、  
定期定期支拂公債、  
定期臨時支拂公債、

二 無期確定公債 公債

此他尙ホ經濟上ノ效果ヨリテ觀察シテ生産的公債ト不生産的公債ニ分類シ擔保ヲ附スルト否トニ據リテ擔保附公債ト無擔保公債ニ分類シ利子ヲ附スルト否トニ據リテ利子附公債ト無利子公債ニ分類シ花札ヲ附スルト否トニ據リテ花札附公債ト無花札公債ニ分類シ課税ノ目的物ト爲スト否トニ據リテ花札無稅公債ニ分類シ稅名ノ有無ニ據リテ記名公債ト無記名公債ニ分類スル等幾多ノ區分ヲ爲シ得サルニアラサレトモ此等ノ分類ハ公債ノ區分トシテハ比較上之ヲ論究スルヘキ價値少ク且ツ別ニ他ノ章目ノ下ニ於テ便宜叙述スヘキ機アルヲ以テ茲ニハ前掲四種ノ分類ヲ説明シ此カ利害得失ニ付キ論究スル所アルヘシ

第二節 非常公債及ヒ平常公債

第一款 非常公債

非常公債トハ戰亂其他天災地變等意外ノ事變ニ因ル非常ノ費途ヲ蔽フカ爲メ起債セララルルモノニシテ我邦ニ在リテハ明治十年ノ役ニ第五國立銀行ヨリ借入タル征討費一千五百萬圓明治二十七八年ノ役ニ於ケル軍事公債明治二十年八月勅令百四十四號五千萬圓ノ如キ是ナリ蓋シ非常公債ハ平常公債ニ比シテ其額巨大ニ上ルヲ常ト爲シ且ツ急速ノ供給ヲ要スルモノナリ而シテ一面ニハ其需要ハ多クハ國家ノ生存問題ニ關聯シ必要ノ度大ナルヲ例ト爲スヲ以テ公債ノ必要ニシテ又何レノ國ニ通スルモ公債ナキヲ見サルハ畢竟非常ノ事變ノ發生ニ因ルコト此カ避クヘカラサル原由タルコト明カナラトス

第二款 平常公債

平常公債トハ非常公債ニ屬キサル公債ニシテ再分セテ財政上ノ公債經濟上ノ公債及ヒ行政上ノ公債ノ三種ト爲ス

財政上ノ平常公債ニハ財政ノ不足ヲ補フカ爲メニ起債セララルルモノアリ我邦ニ在リテハ海軍軍備ノ費途ニ充ツル爲メ募集セラレシ海軍公債明治十九年六月勅令第四十七號一千七百萬圓ノ如シ又財政整理ノ爲メ募集セララルルモノアリ

リ弘化元年以後明治四年ニ至ル舊藩諸藩縣ノ公債ノ引受トシテ發行セシ新舊公債(明治八年五月布告第九十五號從來永世一代又ハ年限等ヲ以テ給與セシ家祿賞典祿ヲ改メテ祿ノ種類並ニ金祿元高ニ依リ年分ヲ定メ一時ニ下渡ス爲メ起債セシ金祿公債明治九年八月布告第八號政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シタル金札引換公債明治十三年十二月布告第四十七號從前發行ノ六分以上利附ノ内國債ヲ償還整理スル爲メ起債セシ整理公債明治十九年十月勅令第六十六號一億七千五百萬圓其他沖繩縣諸債社寺遞減藏書神官配當祿等ノ如キ是ナリ此種ニ屬スル公債ハ公債ノ管理ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ別ニ詳述スル所アルヘシ

經濟上ノ平常公債トハ經濟事業ヲ起ス爲メ募集セラルルモノナリ我邦ニ在リテハ全國中公益ノ事業ヲ起シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賣ヲ盛ニスル爲メ募集サレシ起業公債明治十一年五月大藏省布達甲第十三號上野國高崎ヨリ美國大垣マテ中仙道ニ沿ヒ延テ伊勢國四日市ニ至ルマテ鐵道ヲ布設シ及ヒ其事業ヲ經營スル爲メ起債セラレシ中仙道鐵道公債明治十六年十二月布告第四

十七號相模國戶塚橫須賀間近江國大津長濱間ノ鐵道布設資金ヲ補充スル爲メ募集セラレシ鐵道補充公債明治二十二年一月勅令第六號二百萬圓ノ如キ既設官設鐵道改良北海道鐵道建設製鋼事業電話擴張ノ費途葉類草專賣資金及ヒ國防事業ノ費用ニ充ツル爲メ募集セラルル事業公債明治二十九年三月法律第五十九號一億三千五百萬圓ノ如キ臺灣ニ於ケル鐵道敷設土地調查築港廳舍建築ノ經費ニ充ツル爲メ募集セラルル臺灣事業公債明治三十二年三月法律第七十五號三千五百萬圓ノ如キ此類ナリ

行政上ノ平常公債ハ本章第四節行政上ノ流動公債ノ下ニ於テ叙述スヘキヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

### 第三款 生産的公債及ヒ不生産的公債

序次ノ便ニ由リ生産的公債ト不生産的公債ノ分類ニ付キ一言スル所アルヘシ(公債ノ生産的ト曰ヒ不生産的ト曰フハ其起債ニ因リテ得タル臨時收入ノ支途ノ生産的ナルヤ不生産的ナルヤヲ指スニアラスシテ公債其モノニ存ス故ニ一

方ニハ綜合其收入ノ使途カ不生産的ニ使用セラルルモ公債ノ總額財政ノ上ヨリ觀察シテ未タ多キニ失セズ其利子期限等ノ體様宜シキヲ得其市場ノ價格モ額面高ヲ超ユル場合ニハ以テ生産的公債ト稱スルヲ妨ケサルト共ニ一方ニハ綜合其收入ノ使途カ生産的ニ使用サルトモ公債ノ總額財政ノ上ヨリ觀察シテ多キニ失シ其利子期限等カ體様宜シキヲ得ス其市場價格モ額面高ヲ下ルカ如キ場合ニハ復タ不生産的公債ト稱スルコトヲ妨ケサルナリ但レ此間ノ區別ヲ知ルコトノ必要ナルト同時ニ又其使途ノ生産的ナルト不生産的ナルトハ結局公債其モノカ生産的不生産的ト爲ルヘキコトヲ忘ルヘカラス何トナレハ生産的ニ使用セラルル場合ニハ其債務ハ容易ニ償還セラレ多クノ場合ニハ政府ノ收入ニ幾多ノ餘剩ヲ殘シ少クトモ一國ノ富ヲ増進シテ結局人民ノ負擔力擲募力ヲ増進シ公債ノ募集又ハ整理ノ條件ヲ容易ニ爲スモノナレハナリ隨テ經濟上ニ屬スル平常公債ハ所謂生産的公債タルヲ例ト爲スモノナリ

### 第三節 內國債及外國債

一 債權者ノ國籍ヲ以テ標準ト爲シ其全部若クハ大部分カ外國人ノ手中ニ在ル場合ハ外國債ト稱シ內國人ノ手中ニ在ル場合ハ內國債ト稱ス其募集地ノ内外何レニ存スルヤハ問フ所ニアラサルモ外國債ハ外國ニ於テ起債セラルルヲ原則トシ內國債ハ內國ニ於テ起債セラルルヲ常ト爲スモノナリ此二者ノ別ハ公債證書其モノノ移轉ニ因リ互ニ其性質ヲ變スヘキハ言フ俟タズ近ク明治二十七八年役ニ於ケル我軍事公債ノ如キ「アミユル」商會ヲ經テ其大部ハ外國人ノ手裡ニ移轉セルハ世人ノ知ル所ナリ

#### 第一款 緒論

債權者ノ國籍ヲ以テ標準ト爲シ其全部若クハ大部分カ外國人ノ手中ニ在ル場合ハ外國債ト稱シ內國人ノ手中ニ在ル場合ハ內國債ト稱ス其募集地ノ内外何レニ存スルヤハ問フ所ニアラサルモ外國債ハ外國ニ於テ起債セラルルヲ原則トシ內國債ハ內國ニ於テ起債セラルルヲ常ト爲スモノナリ此二者ノ別ハ公債證書其モノノ移轉ニ因リ互ニ其性質ヲ變スヘキハ言フ俟タズ近ク明治二十七八年役ニ於ケル我軍事公債ノ如キ「アミユル」商會ヲ經テ其大部ハ外國人ノ手裡ニ移轉セルハ世人ノ知ル所ナリ

內國債外國債ノ區別ハ單ニ債權者ノ内外國人ナルヤニ存シテ必要ナル分類ト看ルコト能ハサルモ外國債其モノノ利害關係ハ外資輸入ノ問題及ヒ政治問題ト相牽聯シテ從來學者ノ多ク研究セラルル所タリ昨年我政府ハ又一千萬磅ノ外國債募集ノ舉アリ各國其實例多キノミナラス其政策ノ是非ハ社會ノ全般ニ影響ヲ來シ時ニ一國ノ生存問題ニ波及スルコトナキニアラサルヲ以テ少々

ク茲ニ講述スル所アルヘシ  
外國債ニ付テハ現時之ヲ絕對ニ非議スル者アルヲ聞カス今便宜ノ爲メ治極論者ノ重ナル論點ヲ列舉スレハ大畧次ノ如シ

第一 財政上ノ弊害

一 借入容易ニシテ低利ノ場合多キヨリ濫ニ起債スルノ患アルコト

二 前號ノ結果トシテ浪費ヲ生シ易ク爲メニ經費ヲ増加スルコト

三 前號ノ結果トシテ國庫ノ破産ヲ避レンニハ増税ノ手段ヲ取ラサルヲ得サルノ患アルコト

第二 經濟上ノ弊害

一 外資ノ輸入ハ一時ニ通貨ヲ膨脹スルモノナルヲ以テ金融市場ヲ擾亂ス  
二 前號ノ結果トシテ物價ニ急激ナル變動ヲ來スコト  
三 物價騰貴ノ爲メ輸入超過ト爲ルト同時ニ第一號ニ因リテ輸入スル正貨

出ツルヲ高ムヘキコト  
第三 政治上ノ弊害

一 立外國債ノ不整理ハ直接間接ニ債權國ノ干渉ヲ蒙リ甚キキハ一國ノ生存即チ前掲スル所ヲ略言スレハ外國債ハ濫ニ起債セララルル憂多ク之ヲ起セハ金融市場ヲ擾亂シ時ニハ外國ノ干渉ヲ受クルニ至ルヘシト云フニ在リ今序ヲ遂フテ此利害ヲ辨明スヘシ

第二款 財政上外國債ノ利害ヲ論ス

財政上ノ消極論ハ公債中ニ在リテモ外國債ハ殊ニ無用ノ費途ヲ誘導シ易シト云フニ外ナラス換言スレハ其起債ノ容易ニヤテ低利ナルコト多シト爲ヌヲ以テ濫ニ起債セラレ結局浪費ヲ助成シ之ヲ填補スヘキ惡税ノ増加ト爲ルヘシト云フニ在リ所謂浪費大ニシテ惡税ヲ増加スヘシト云フハ先ツ無用ノ經費ノ爲メニ起債セルコトヲ前提トシテ論スルモノニシテ是レ獨リ外國債ニ限ラルハ

キモノニアラス又其起債ノ容易ナル爲ニ結局外國債ハ内國債ヨリ財政上ノ  
 害ヲ來スヘキ機會ヲ多シト云ムシモ外國債ハ必スシモ内國債ヨリ容易ニ起債  
 セラレ得ヘキモノニアラス通常何レノ國ニ在リテモ先ツ内國債ニ依ルヲ原則  
 トシ既往内國債ノ總額又ハ最近起債ノ時期募集額等ノ關係ト金融界ノ狀勢ト  
 ヲ照應シ内國債ニ依ル日ト困難ナルカ又ハ不可ナリト認ムルトキ始メテ外國  
 債ニ依ルニ至ルハ各國ノ公債歴史ニ徵スルモ明カナル事實ニシテ寧ロ財政困  
 難ノ際外國債募集ノ難アルカ爲メ之ニ附帶シテ弊害ヲ來スコト少シト爲テス昨  
 年我國ノ外債募集ニ對シテモ亦之カ消息ヲ付度スルニ難シト爲ササルナリ大  
 數觀測ヲ以テ言ヘハ内國債却テ外國債ヨリ起債容易ナルヘキヤ未タ知ルヘカ  
 ラス殊ニ東洋諸國其他半開ノ國ニ在リテハ巨額ノ資本ヲ以テ充實セル歐米ノ  
 市場モ猶ホ此カ投下ヲ爲スニ躊躇シ信用ノ薄弱ナル決シテ外國債ヲ以テ容易  
 ニ成立シ得ヘキモノト認ムヘカラサルモノアリ是レ消極論者カ根本ニ於テ查  
 然同意ヲ表スヘカラサル所以ニシテ其財政上生スヘキ弊害ハ内外國債ノ區別  
 如何ニアラズシテ一ニ當事者ノ手腕如何ト既往財政上ノ狀勢トニ存スヘキコ

ト言フ埃タサルナリ  
 昨年五月末日大藏省令第二十二號ニ依ル外債ノ如キハ其成立ニ至ルマテ實  
 際ニ於ケル成行ノ難易ハ姑ク之ヲ問ハス四分利ニマテ發行價格百磅ニ付キ  
 拂込額九十磅之ニ百分ノ四ノ手數料ヲ控除シテ結局八十六磅ノ實收ト爲レ  
 ルカ如キ少クトモ外國債ヲ以テ内國債ヨリ容易ニ且ツ利益多キ條件ヲ以テ  
 成立スルコトヲ得ヘキモノニアラサルコトヲ知ルニ至ルヘシ

第三款 經濟上外國債ノ利害ヲ論ス

外國債ノ募集ハ一時ニ通貨ヲ募集スルト相同シキヲ以テ金融市場ニ急激ナル  
 動搖ヲ來シ物價ノ騰貴ハ正貨ノ流出ト相待チテ輸入超過ト爲リ漸次又通貨ノ  
 缺乏ト爲リ社會事業ノ發達ヲ挫折シ經濟界ヲ紊亂スヘシトハ消極論者カ經濟  
 上ノ弊害トシテ舉ゲル所ナリ此論點モ亦等ク绝对的ニ是非スヘキモノニア  
 ラスシテ内國債ニ於テモ經濟上ノ弊害ヲ來スヘキ場合アルト共ニ外國債モ亦  
 此等ノ弊害ヲ除去シテ却テ巨多ノ利便ヲ來スコトアリ其是非ハ一ニ内國金融  
 界ノ狀勢如何ニ存スルモノナリ若シ内國ノ金融界逼迫ヲ告タルコトナク所謂

遊金ノ存スル場合ニハ内國債ノ募集ハ容易ナルノミナラス民間資本家モ亦希  
望スル所ナリ此際猶ホ安キヲ避ケテ特ニ外國債ヲ起サシメ金融界既ニ通貨ノ  
潤澤ヲ告タルニ加フルニ外資ノ輸入ヲ以テス前掲通アルカ如キ弊害ノ生スヘ  
キコト又火ヲ賭ルヨリモ明カナリト謂フヘシ然レトモ容易ニ起債シ得ヘキ内  
國債ヲ避ケテ外國債ニ依ルコトハ事實トシテ想像シ得ヘカラサルコトニシテ  
一般ニ外國債ヲ起スハ内國債ニ依ルコト不利ナルカ又困難ナル場合ニ在リ今  
内國債ヲ募集スルニ際シテ其公債カ流動公債即チ短期ノ公債カ又ハ總令確定  
公債ナリトモ應募者カ其資金ヲ外國ノ生産事業ニ投下セルモノヨリ之ヲ回收  
スル場合ニハ内國經濟界ニ及ホスヘキ影響ハ稀少ナルヘキモ一般ノ場合ニ於  
テ内國金融界逼迫ヲ告ケ資本ハ總テ生産事業ニ投下セラレ遊金ノ存セサル場  
合ニハ苟モ内國債ヲ起シテ成功ヲ期セシムルニハ必スキ金利ヲ高シシ拂込額ヲ低  
クスル等勢ヒ財政上不利益ナル條件ヲ以テセスハアラキ換言スレバ既ニ生  
産事業ニ投下セル資本家ヲシテ其資本ヲ引戻サシムル丈ニ條件ヲ與フルニア  
ラズンハ成功ヲ期シ難キコト言フ埃タス此ノ如キ場合ニ於テハ資本家其モノ

ノ利害關係ハ姑ク之ヲ措キ社會全般ハ一時資本ニ急激ナル變化ヲ受ケタル爲メ  
物價其他ニ影響ヲ受ケ經濟界ニ一種ノ亂調ヲ呈スヘキト共ニ中産者以下ハ一  
方ニ於テハ其公債ノ元利支拂ノ爲メ結局租税ノ負擔ヲ増加スルト共ニ從來投  
資セラレシ事業中絶ノ爲メ其職ヲ失ヒ勞動ノ供給過多ノ結果トシテ營業所得  
勞銀ノ暴落ト爲リ社會問題ニ牽聯シテ諒カラサル害毒ヲ與フヘキコト又消極  
論者カ唱道スル場合ノ比ニアラサルナリ此ノ如ク一方ニハ内國債ノ起債カ民  
間生産事業ノ進捗ヲ障害スヘク一方ニハ政府カ起債スル目的ハ交通事業ノ如  
キ確實ニシテ有利ナル事業ヲ開クニ在ルトキハ外國債ヲ募集スヘキコトハ當  
然ノ事理ニ屬シ却テ好箇ノ良策ト謂ハスシハアラズ利子ノ流出ハ固ヨリ巨額  
ノ外資流用ノ報酬ナリ一方ニ民間ノ生産事業ヲ障害セス一方ニ有利ノ官業ヲ  
興スニ於テハ毫モ弊害ノ發生スヘキ理由ヲ見サルモノトス經濟上ニ於ケル外  
國債ノ利害又絶對ニ之ヲ論斷スヘカラサルト共ニ事實外國債ニ依ル場合ハ内  
國債ニ依ルカハサルカ又之ニ依ルトキハ一層ノ害毒ヲ生スヘキ場合ナルヘキ  
コト知ルヘキナリ其起債ノ目的ノ良否ニ至リテハ又内外國債ノ間ニ何ノ差異



カアラシキ

### 第四款 政治上外國債ノ利害ヲ論ス

外國債ノ通弊トスル所ハ財政ノ不整理ニ伴ヒテ外國干涉ノ端ヲ啓クニ在リト  
 ハ一般ニ唱道セラルル所モシテ時ニハ又債權國ハ債務國ノ信用ヲ墜落セシメ  
 シカ爲メ故意ニ債務國ノ公債ヲ賣出スカ如キコトアリ外國干涉ノ實例トシテ  
 引證セラルルハ多ク埃及突尼斯等ニシテ國際法上外債償還ノ不履行ハ干涉ノ  
 原因ト認ムヘキヤ姑ク之ヲ措キ「ツツタル」氏ノ如キハ「臣民ノ財産ハ即チ國  
 家ノ有スル富ノ總額ニシテ國民ノ財力ハ直チニ國力ヲ消長スルモノトシ正當  
 ナル干涉ノ原由ト看テモノノ如シ事實ハ外國干涉ノ結果トシテ其獨立權ヲ失  
 フニ至レリ」  
 埃及政府カ土耳其ヨリ財政上ノ獨立ヲ得シハ一千八百四十二年、六十六年及  
 七十七三年ノ條約ニ依リシモノニシテ一千八百八十二年七月ニハ其公債總  
 額一億九百一萬六千六百五十磅入口一人ノ負擔額才九磅才九志其利子ノ負

擔額十八志四片ニ當リ公債費ハ歲入ノ五分ノ三ヲ占ムルニ至レリ一千八百  
 七十六年英人ケーン派遣委員トシテ入りテ埃及財政ノ整理ニ著手シ後「  
 ツシエン」ジュー「ベル」氏等又之ニ次ギテ此處分ヲ勵行シ一千八百七十九年檢  
 査總官ノ制ノ下ニ埃及ノ財政ハ舉ゲテ英佛二國ノ手裡ニ歸シ其債務ヲ果ス  
 ニ不能ナルコトヲ公言セラレテヨリ英佛獨塊、伊、匈等ノ聯合債還委員會ノ編  
 成ト爲リ財政干涉ニ對スル國內ノ反抗ハ武力干涉ト爲リ今ヤ英兵ノ埃及ニ  
 駐屯シテ文武其實力ヲ控制スルハ世人ノ知ル所ナリ  
 然レトモ此等ハ毫モ外國債其モノノ弊害ニアラスシテ公債ノ管理其宜ヲ得テ  
 ルニ基因ス信用ヲ輕視シテ契約ノ條件ヲ違背スルハ政府自體ノ失錯ニ出ツル  
 モノニシテ彼「ケー」氏ノ報告ニモ埃及ハ一方ニ於テ東方ノ無智不正浪費ノ  
 弊風行ハレ一方ニハ一時ニ欸米ノ文化ヲ輸入セントシ事業ノ緩急經理ノ方法  
 ヲ謬リ無謀ノ企業ヲ爲シタルニ因レリト財政紊亂ニ伴フ弊害ハ固ヨリ外國債  
 ニ限ルヘキニアラス其利害ハ一ニ財政ノ管理如何ニ在リテ存ス埃及突尼斯等  
 ヲ以テ一般ニ律セントスルハ根本ニ於テ誤レリト謂フベシ

之ヲ要スルニ公債ハ銳利ナル武器ナリ其任用ノ方法如何ハ能ク國ヲ活シ又能ク國ヲ亡スハ前ニ述ビタル所ナリ殊ニ外國債ニ於テ其著シキヲ見ルコト予輩亦信シテ疑ハス外國債ハ其起債管理償還ニ於テ殊ニ慎重ナル注意ヲ要スヘキコトハ言フ按タサルト共ニ外國債其モノハ決シテ思ムヘキモノニアラザルハミナラス却テ特種ノ效果ヲ有スヘキコトハ上述スル所ノ如シテ實際ニ於テハ内外國債ノ利害ヲ對照シテ選擇スヘキ餘裕アル場合ハ稀ニシテ多クハ需ニ應スルニ急ナルノ餘復タ之カ選擇ヲ爲スコトヲ得サルヲ例ト爲スモノナリ近時輸入超過シ正貨流出ニ經濟界ノ機關ヲ來サントスルニ際スル調和策トシテ外債ニ依ルコトアリ露國ノ如キ是ナリ又一方ニハ信用機關ノ發達ニ伴ヒ巨額ノ資金一時ニ流入スルコトヲ避ケ一方ニハ手數經費ヲ節減スルノ策トシテ先ツ官業ノ材料等ヲ債主國又ハ其附近ニテ購買スルコトアリ況ヤ外債ニ依リテ各國ヲ通シテ財政上五ニ相牽聯スルコトハ國際上喜フヘキ現象ニヤ其利害關係ハ平和ノ鍵トシテ直接間接ニ戰亂ノ害毒ヲ防遏スルノ效果ナント爲ササルナリ

第四節 強制公債ト任意公債

第一款 強制公債

強制公債トハ政府カ相手方ノ合意ヲ經ス強制シテ起債スル公債ナリ其強制方法ノ直接ナルト間接ナルトニ依リ又再分シテ直接強制公債及ヒ間接強制公債ノ二種ト爲ス

第一項 直接強制公債

直接強制公債ハ往時履行ハレシモノニシテ一種ノ非常稅ト視ルコトヲ得ヘシ其租稅ト異ナルハ其強制シテ借入レタル元金ニ付キ支拂ノ義務アルト其元金ニ對シ通常低利ヲ附スルコトアルニ在リ隨テ又其證書ヲ賣却スルコトヲ得ヘシ所謂強募法ト稱セラレルモノ是ナリ

直接強制公債ハ又其強制ノ方法ニ依リテ之ヲ借入強制公債ト支拂強制公債ノ二種ニ再分スルコトヲ得ヘシ即チ

借入強制公債又ハ割付國債トハ國民ノ財産ニ對シ或標準ヲ以テ拂込額ヲ割  
付テ此カ借入ヲ強制スルモノナリ  
支拂強制公債トハ政府カ國民ニ對スル債務ノ支拂ニ際シ合意ナクシテ現金  
ニ代リニ公債證書ヲ以テ支拂ヲ強制スルモノナリ

### 第一目 借入強制公債

借入強制公債ハ種種ノ標準ニ據リテ此カ割付ヲ強制スルコトアリ府縣郡市町  
村等自治團體ノ階級ヲ通シテ順次此カ借入高ヲ配付スルアリ或ハ政府カ各人  
ノ拂付所ノ直税ノ歩合ニ比例シテ割付タルアリ或ハ富裕ナル地方ヲ指定シテ  
所定ノ出金ヲ命ジ此カ租稅ヲ免除スルコトアリ此等何レノ方法ニ依ルモ政治  
上人心ヲ離畔シ政府ノ信用ヲ減却スヘキハ固ヨリ其不公平不便ナルコトハ復  
タ説明ヲ俟タズ即チ國民財産ノ實額ヲ知悉シ難キト又其財力ヲ詳悉スルモ租  
稅論ニ於テ既ニ知レル如ク財力ト被稅力ハ互ニ正比例ヲ爲ササルモノナルヲ  
以テ結局公平ヲ失スヘキノミナラス租稅ト異ナリ不時ニ割付公債ヲ強制スル

トキハ國民ニ與フル害毒著大ナルヘシ往器諸國ニ於テ方法ハニ依リ非常ノ費  
用ヲ辨セントシ悉ク失敗ニ了リシハ又様々ムニ足ラサルナリ  
佛蘭西ニ於テハ一千七百九十三年及ヒ一千八百十五年埃太利ニ於テハ一千  
七百五十年一千七百六十年一千七百九十四年一千八百六十年一千八百五十年一  
千八百五十九年西班牙ニ於テハ一千八百三十八年ニ於テ行ヘル強募法ハ其  
ニ有名ナルモノニシテ其他バーデン等ニ於テモ行ハレタルモ何レモ失敗ニ  
了リ一千七百九十三年佛蘭西ニ於テ募集ノ場合ハ四億圓ニ對シ四千萬圓ヲ  
得ルニ過キナリキ唯稍ニ成效ニ近カリシハ一千八百十五年ノ場合ニシテ其額  
ノ四千萬圓ノ少額ニ止マリシト當時那破翁連年戰亂ノ餘國民平和ヲ望ムコ  
ト切ニ政府ノ信用亦厚カリシヲ以テ年内ニ豫定ノ額ヲ得タルコトアリ

### 第二目 支拂強制公債

支拂強制公債モ其政治上經濟上財政上何レノ點ヨリ觀ルモ害毒ノ大ナルコト  
復タ言フ埃タズ殊ニ證書ニ其當時ノ市價ヲ以テ支拂フコトナク額面價格則チ

平價ヲ以テ支拂フニ於テ殊ニ然リト爲ス(佛國ニテ那被翁一世平價ヲ以テ支拂  
 ヲ強制シ殆ト二割餘ノ損失ヲ債權者ニ負ハシメタリ)蓋シ債權者カ物品供給ノ  
 結果ナルト公債ノ所有者ナルトヲ問ハス多ク其支拂ニ因リ現金ノ收得ヲ豫期  
 セルモノニ際シ猶ホ證書ヲ以テ交付スルトキハ必スヤ之ヲ賣却シテ現金ヲ收  
 得セズンハアラス而シテ其收得金ハ證面額ニ比シテ固ヨリ少カルヘク尙ホ多  
 少ノ手數ト時間ヲ要スルヲ以テ物品供給者ノ如キ此等事實ノ發生ヲ豫期スル  
 トキハ其損失ヲ填補スルニ足ルヘキ價格タケ高ク賣込ムベキハ當然ノ事理ニ  
 シテ政府カ強制支拂ノ弊風ヲ學ヒテ偶々毫モ利スル所ナキニ至ルヘキナリ而  
 シテ其證書交付ノ爲メ受クル所ノ損害ハ物品供給者其他大藏省證券ノ如キ短  
 期公債ノ所有者ニ於テ大ナルヘキハ亦明カナリ信用ハ經濟社會ノ根底ヲ形成  
 スルモノナリ若シ政府財政ノ不振ニ因リ現金支拂ヲ以テ難キト爲モ債主ト  
 協議シテ此カ支拂ノ延期ヲ爲シ又ハ他ノ證書ト借換ヲ爲スハ猶ホ可ナリ事  
 公然普通ノ方法ニ依リ大藏省證券又ハ長期ノ公債ヲ起シ以テ信用ノ維持ヲ計  
 ラスンハアラサルナリ

### 第二項 間接強制公債

茲ニ間接強制公債トハ不換紙幣ヲ指スモノニシテ合法貨幣トシテ強制通用ヲ  
 爲スモノナリ即チ買賣貸借等ニ於テ額面價格ヲ有シ何人ト購モ之カ授受ヲ拒  
 ムコト克ハサルモノナリ不換紙幣ハ利子ノ支拂ナク募集ノ費用ヲ要セス其原  
 料品ノ價格發行ノ費用ノ如キ僅少ノ額ニ止マリ其モノ自體ノ利用價值ハ殆ト  
 皆無ト謂フヘク殊ニ元金ノ鎖却スラ法律上制限ヲ受ケサルモノナルヲ以テ一  
 種ノ直接支拂強制公債ニシテ債主不定ニ且ツ元利支拂ノ義務ナキモノナリ  
 論者或ハ不換紙幣ノ發行ヲ以テ貨幣ノ吹換又ハ賸餘ト同一ナリト極論スル  
 者アレトモ不換紙幣ノ發行ハ貨幣ノ吹換ノ場合ノ如ク常ニ不正ノ手段ヲ包  
 含セサルノミナラス其管理宜ヲ得ハ毫モ額面價格ヲ下ルコトナク財政危急  
 ノ際ニハ唯一ノ良策トシテ俾效ヲ奏スルコトアリ

不換紙幣ハ銀行ノ手形發行ニ濫觴シテ法律上政府又ハ銀行カ發行セシ紙幣ニ  
 強制通用ノ性質ヲ與ヘ正貨ト兌換スルノ義務ナキモノナリ其發行ノ容易ナル

ヨリシテ現時各國ヲ通シテ盛ニ此制行ハレ其濫用ノ結果到ル處毒ヲ流布シ「ウエブスタ」氏ノ如キ紙幣ノ爲メニ吾人カ被リタル災害ハ實ニ甚シク人民ヲ殺シシ國家ノ利益ヲ破壞シ正義ヲ亂リ其害毒造ニ戰爭ニ勝レリト言フニ至レリ蓋シ不換紙幣ノ問題ハ貨幣論ニ於テ攻究スヘキモノニシテ茲ニハ之ヲ詳論スルノ機ナキカ故ニ唯財政上ノ點ヨリ此利害ニ付キ其梗概ヲ述ブルニ止メントス

不換紙幣ハ積極ニ不換紙幣其モノヲ發行セラルル場合ト在來ノ兌換券ノ兌換ノ停止ヲ爲スト二箇ノ場合アリ前者ハ非常ナル財政困難ニ遭遇セルトキ又戰時等ノ事變ニ際シ豫メ巨額ノ經費ニ應スヘキ爲メ發行セラルルヲ常ト爲シ其例枚舉ニ違アラス後者ハ多ク一大銀行カ恐慌ニ遭遇シ又ハ營業上ノ失敗アリシトキ銀行カ信用ヲ恢復シテ融通ヲ爲シ得又ハ恐慌ノ經過スルマテ倒産ノ患ヲ避ケンカ爲メ行ハルルモノニシテ千六百九十五年ニ於ケル英蘭銀行千八百四十八年ノ佛蘭西銀行ノ如キ皆此趣旨ニ因リ支拂停止ヲ爲シタリ

不換紙幣ノ發行方法ニハ政府自體カ直チニ其要スル所ノ額ヲ發行スル場合ト

金融機關ヲ指定シテ其機關ヨリ政府所要ノ額式ノ銀行紙幣ヲ精付セシムル場合トノ別アリ即チ後者ノ場合ハ銀行委託發行法ト稱セラレ主トシテ英佛ニ行ハルル方法ニシテ金融機關即チ銀行若クハ銀行組合ヲシテ其營業需要外ニ紙幣ヲ發行スル事トテ許シ其責任ハ政府自ラ之ヲ負フモノニシテ銀行ハ唯假面ノ債主ニ過キテ銀行ノ納付スル紙幣ニ付テハ銀行ハ毫モ資本ヲ要スルコトナク又之ニ對シテ正貨ト交換スルコトヲ要セス即チ無名ニシテ不完ナル眞ノ債主即チ國民ト政府ノ間ニ媒介保證ノ勞ヲ取ルモノニシテ其納付額ニ對シテ政府ヨリ受タル金ヲ利子ト云フモ其實ハ製造費其他ノ手數ヲ包含セル一種ノ報酬ニシテ債主ノ國民ニ對シテ政府カ債務ヲ負フニ於テハ政府自ラ發行スル場合ト異ナルコトナシ

不換紙幣ノ長處ハ政府租稅又ハ通常公債ノ方法ニ依ルコト能ハザルカ又能フヘキモ時日金額其他條件ニ於テ非常ナル困難ヲ來スニ際シ課稅又ハ起債ノ手數ト經費ヲ要セス隨時所要ノ額ヲ發行スルコトヲ得ル唯一ノ手段トシテ認マラルルニ在リ不換紙幣カ此特種ノ效果ヲ奏セシハ普佛戰爭後ニ於ケル財政整理

ノ歴史ヲ以テ好實例ト爲スヘシ普佛戰爭ノ大敗ニ因リ人命財産ヲ消耗セシメ  
 ト固ヨリ算ナク戦後尙ホ巨額ノ償金ヲ支拂ヒ而モ十年ヲ出テスシテ財政ノ整  
 理其全キヲ告ケ能ク今日ノ佛蘭西アルヲ致セシハ實ニ不換紙幣ノ效ニシテ不  
 換紙幣ニ依ルニアラスシハ又他ニ救正ノ手段ヲ見出タスコト克ハツリシモノ  
 ナリトス

普佛戰爭ノ際「ラール」ニ「ボルドニー」ニ設置セラレシ假政府ハ財源乏シク信用  
 薄弱ニシテ抵當モ亦確實ナラス故ニ殆ト八分ノ利子ヲ以テ八千萬ノ公債ヲ  
 募集ルニ苦タリ此際政府ハ佛蘭西銀行ヨリ五億八千八百萬圓ヲ借受ケ戰爭中  
 ハ六分ノ利子トシ戰爭後直チニ三分ニ下ケ遂ニ一分ニ下ケタリ而シテ政府  
 ハ千八百七十一年及千八百七十二年ニ公債ヲ募集シ其翌年又三億圓ノ公  
 債ヲ募リ此年ヲ以テ全然不換紙幣ヲ銷却シ得ルニ至レリ然レトモ公債ハ其  
 利子六分ナレトモ不換紙幣ノ借入利子ハ九厘一分中印紙稅一厘差引高ニ過キ  
 ナルヲ以テ不換紙幣ヲ存スレハ公債總額四億四千萬圓乃至八千萬圓ニ付キ  
 一年二千萬圓ノ利子ヲ利スヘキヲ以テ之ヲ保存シタリ而シテ千八百七十

三年以後ハ正貨ト紙幣ト價格相平均シテ民心安シシ國民毫モ其苦ヲ受ケルル  
 事トナシ千八百七十九年三月ヲ以テ不換紙幣ヲ銷却ラセタルニ至レリ蓋シ不  
 換紙幣ニシテ此ノ如キ著效ヲ奏セシハ政府ヲ始メ銀行及ヒ國民ハ一時ノ便  
 宜手段トシテ直チニ兌換恢復ノ期ニ達スヘシト信シ當時ノ流通高ハ十二億  
 圓ニ上リシモノ一方ニ四億圓ノ正貨ハ一時ニ價金トシテ佛國ヲ去リシヲ以テ  
 不換紙幣其後ヲ填メ正貨過多ノ獨逸ヨリ正貨ノ漸次復歸スルニ至リテハ紙  
 幣又漸次銷却セラレテ金紙ノ價額其平均ヲ失ハヌ而シテ一方ニハ四億萬圓  
 ノ多クハ爲替手形ヲ以テ支拂ハレ其手形ハ輸出超過佛國來遊外人ノ所持  
 セル正金手形佛人所有ノ外國債利札等ヲ以テ成リ外國爲替ハ常ニ順境ナリ  
 シヲ以テ佛國ニ支拂額ノ超過ハ外國市場ニ於テ不換紙幣ハ金貨ニ對シテ却  
 テ打歩ヲ生スルニ至レリ此ノ如ク千八百七十年ノ佛國不換紙幣ハ非常ノ場  
 合ニ於ケル唯一ノ救濟手段トシテ財政上稀有ノ偉效ヲ奏セタリ

或論者ハ千八百七十年ノ佛國ノ財政ニ付キ反論シテ曰ク當時佛國ニ於テハ  
 經濟上預極ニ擾亂ヲ來シタルコトナシト雖モ其不換紙幣ノ價格ヲ維持シ

所以ノモノハ(一)時數週間打歩千分ニ二十七ニ下落シタルポトアリ畢竟人爲ヲ以テ通貨ノ額ヲ制限シタルニ因ルモノニシテ獨逸ニ支拂ヒタル債金ノ爲メニ大ニ通貨ノ額ヲ減少シ其拂底ヲ告ケルノ際ナリシヲ以テ紙幣ト正貨トノ間ニ格段ノ差異ヲ見サリヤト雖モ既ニ人爲ニ因リテ通貨ヲ制限シ經濟上自然ノ運轉ヲ妨害シタルカ爲メ其發達進歩ヲ害シタルコト夥シク從來歐洲金融界ノ新ヲ唱ヘシ佛國ハ其權力ヲ英國ニ奪ハルルニ至レリト此反論ニ對シテハ又多言ヲ用フルコトヲ要セス唯不換紙幣發行ノ爲メニ普佛戰爭ヲ開キテ大敗ヲ招キシニアラス戰爭大敗後ノ復舊策トシテ不換紙幣發行ノ手段ニ訴ヘシモノナルコトヲ知レハ足レリ戰亂ノ罪ヲ以テ其戰敗ニ對シ偉效ヲ奏シタル不換紙幣ニ綠セントス論理ノ矛盾亦甚シト謂フヘキナリ

上述スルカ如ク不換紙幣ハ固ヨリ絕對ニ非難スヘキモノニアラザルノミナラズ財政上異常ノ場合ニ於テ特種ノ效果ヲ奏スルモノナルニ拘ラス多數ノ學者カ猶ホ不換紙幣ニ付キ其弊害ヲ擧ケテ之ヲ非難スル所以ノモノハ要スルニ不換紙幣ハ濫發セラレバ常ト爲スニ在リ即チ各國財政ノ沿革ニ徴スルモ不換

紙幣ノ發行ハ失敗ニ了ルヲ以テ例ト爲シ不換紙幣其モノヲ以テ直チニ此カ濫發ノ害毒ヲ聯想セシムルニ在リ蓋シ不換紙幣發行ノ度數及ヒ發行額ノ多キニ過タルコト即チ不換紙幣ノ濫發ハ一ニ其發行ノ容易ナルニ存ス而シテ其濫發ノ害毒ノ大ナルハ一ニ其屈伸力ヲ有セザルニ存ス即チ利用價值ヲ有スル正貨又ハ常ニ正貨等ノ準備額ニ比例シテ増減スル兌換紙幣ニ在リテハ貨幣ノ價格ノ高下ハ直接間接ニ國際貿易ニ依リテ此カ均衡ヲ保持スヘキモ國外ニ流出セザル不換紙幣ハ忽チ國內流通貨幣ノ膨脹ト爲リ價格ノ暴落ヲ告ケ物價ノ暴騰ヲ來スモノナリ即チ其濫發シ易キ所以ハ利用價值ナキ一ノ紙片タルニ存シ又同時ニ其害毒ノ大ナルヘキコトヲ示スモノナリキワイト氏カ「アツシニヤ」證券ノ發行ニ付キ物理學上物體ノ高所ヨリ加速度ヲ以テ墜落スル原則ハ等シク不換紙幣増發ノ場合ニ生スル現象ニシテ財政上及ヒ經濟上戰慄スヘキ害毒ノ附隨スルニ拘ラス世人ハ恰モ醉狂者ノ如ク物價ノ騰貴事業ノ勃興等一時假面ノ現象ニ眩惑シ害毒ノ洽ク浸蝕セララルルニ及ヒテ始メテ其非ヲ悟ルモノナリト曰ヘルハ又此理ヲ形容セルモノナリ



第十八世紀ノ終リ及ヒ第十九世紀ノ初ニ在リテハ諸國ノ人民紙幣ノ爲メニ損害ヲ被リシ者少カラス英國ニ於テハ一方ニハ自家ノ存亡ニ關聯シテ政府ノ行動ヲ牽制シ一方ニハ一般金融界ノ狀勢ニ通曉セル銀行ノ手ニ由リテ發行セルモ猶ホ不換紙幣ノ下落ハ二割五分二五ニ達シ高下常ナク頗ル經濟界ヲ苦メタリ然レトモ遂ニ銀行ノ破産ヲ見ルニ至ラザリシハ仍ホ銀行ニ由リテ發行セシメシ效果ニシテ彼ノ北米合衆國佛蘭西奧地利ノ如キニ至リテハ不換紙幣暴落ノ極殆ト其價格ヲ失墜シ破産ノ慘況ヲ見ルニ至レリ

佛國ノ「アツシニヤ」證券ハ利子及ヒ期限ヲ附シテ支拂ヲ爲スヘキ買入證書トシテ發行セラレシモノニシテ一年ヲ經ヌマテ千七百九十年五分ノ利子ハ三分ト爲シ尋テ同年中全ク無利子ト爲シタリ千七百九十二年ニハ發行高八億萬圓ヲ超ユ每年國內ニ増加スル貯蓄高及ヒ該證書ヲ償却スヘキ資本金ト其權衡ヲ失スルニ至リ隨テ期限來ルモ償却セラズルコトナク一種ノ強制紙幣ト爲リ其後連年濫發セラレテ千七百九十三年ニハ流通高八十億圓ニ上リ千七百九十六年二月十九日ニハ千七百八十九年以後ノ發行ニ係ル「アツシニヤ」紙幣ノ高百八十二億餘圓當時ノ流通高百六十億圓ノ巨額ニ達シ二十四「ゾル」ノ金貨ハ七千五百「ゾル」ノ「アツシニヤ」紙幣ト交換セラルルニ至レリ是レ「アツシニヤ」紙幣ハ増發スルモ價格ヲ損セラルヘシトノ謬見ノ外ニ土地ヲ以テ貨幣ノ補助若クハ代用物ト爲ス紙幣ノ基礎ヲ爲スヘキコトヲ唱道シ十八世紀ノ初ニ於テ失態ヲ現ハセシ「ジョンロー」愚ヲ再演セシモノナリ後千七百九十六年拂下機リノ官有地ヲ抵當トシ「マンダール」テレトリヤルト稱スル土地抵當紙幣九億六千萬圓ヲ發行シ「アツシニヤ」紙幣ノ三十倍ノ價格ヲ以テ交換ヲ爲スコトトシ破産ノ失態ヲ自白シテ幸ウシテ「アツシニヤ」濫發ノ害毒ヲ漏漚スルニ至レリ

英「國」ノ「アツシニヤ」紙幣ハ「マンダール」テレトリヤルト稱スル土地抵當紙幣九億六千萬圓ヲ發行シ「アツシニヤ」紙幣ノ三十倍ノ價格ヲ以テ交換ヲ爲スコトトシ破産ノ失態ヲ自白シテ幸ウシテ「アツシニヤ」濫發ノ害毒ヲ漏漚スルニ至レリ

奧地利ニ於テモ千八百十年ニハ不換紙幣ノ發行高十億圓ヲ超ユ千八百十一年年ニハ「國家」屬ノ不幸ニ遭遇シ物價騰貴紙幣ノ價格益々下落シ日高紙幣ノ銀貨百「ゾル」ヲ以テ紙幣千二百「ゾル」ニ交換セシコトアルニ至レリ云云ノ勸諭ト共ニ不換紙幣ノ通用ヲ止メ引換紙幣ナルモノヲ發行セテ五倍ノ價格ヲ以テ交換スルコトト爲セリ是レ佛國ノ「マンダール」テレトリヤ

「アツシニヤ」紙幣ハ「マンダール」テレトリヤルト稱スル土地抵當紙幣九億六千萬圓ヲ發行シ「アツシニヤ」紙幣ノ三十倍ノ價格ヲ以テ交換ヲ爲スコトトシ破産ノ失態ヲ自白シテ幸ウシテ「アツシニヤ」濫發ノ害毒ヲ漏漚スルニ至レリ

英「國」ノ「アツシニヤ」紙幣ハ「マンダール」テレトリヤルト稱スル土地抵當紙幣九億六千萬圓ヲ發行シ「アツシニヤ」紙幣ノ三十倍ノ價格ヲ以テ交換ヲ爲スコトトシ破産ノ失態ヲ自白シテ幸ウシテ「アツシニヤ」濫發ノ害毒ヲ漏漚スルニ至レリ

奧地利ニ於テモ千八百十年ニハ不換紙幣ノ發行高十億圓ヲ超ユ千八百十一年年ニハ「國家」屬ノ不幸ニ遭遇シ物價騰貴紙幣ノ價格益々下落シ日高紙幣ノ銀貨百「ゾル」ヲ以テ紙幣千二百「ゾル」ニ交換セシコトアルニ至レリ云云ノ勸諭ト共ニ不換紙幣ノ通用ヲ止メ引換紙幣ナルモノヲ發行セテ五倍ノ價格ヲ以テ交換スルコトト爲セリ是レ佛國ノ「マンダール」テレトリヤ

ル同一ノ窮策ニ出ラシモノナリ其後屢兌換制度ニ復セントセシモ常ニ政治上ノ動搖ニ由リ之ヲ果スコト克ハサルハ世人ノ知ル所ナリ此他千八百六十一年以降南北戰爭ニ於ケル北米合衆國ノグリーオンペーパー千八百六十六年伊澳戰爭後ノ伊太利ノ不換紙幣クリミア戰爭ニ於ケル露西亞ノ不換紙幣ノ如キ皆其失態ノ歸スル所ハ不換紙幣其モノニアラスシテ之ヲ所理スル方法ノ不可ナルニ基因セコト復タ言フ埃タサルナリ

不換紙幣濫發ノ害毒ヲ便宜ノ爲メ列舉スレハ左ノ如シ是レ唯リ不換紙幣ノミニ限ラス一般ノ公債濫發ニ於テ等シク附帶スヘキ現象ナリトス

- 第一 社會政治上ノ弊害
- い 投機心ヲ挑撥ス
  - ろ 奢侈ノ風ハ馴致ス
  - は 背徳ノ弊ヲ助長ス
  - に 勞働問題ヲ騰起ス
- 第二 經濟上ノ弊害

紙幣下落シ物價騰貴ス出動の... 正貨ノ流通停止... 海外ニ流出シ又ハ銷解セラレ若クハ貯藏セ...

事業ノ急激ナル濫興及ヒ其挫折... 貸借關係ノ紊亂... 投機事業ノ誘發及ヒ恐慌ノ發生... 勞銀ノ實價ヲ減少シ貯蓄ヲ阻害ス... 濫費ニ伴フ資本増殖ノ抑制... 貧富ノ動搖急激ニ失シ分配ノ秩序ヲ亂ス...

第三 財政上ノ弊害

- い 政府信用ノ基礎ヲ弱メ將來ノ起債力ヲ減殺ス
- ろ 政府發行ノ他ノ證券ノ價格ヲ低落ス

は 政府内外ノ行動ニ應スル實力ノ伸張ヲ失フ

に 收入ノ實力ヲ減殺シ經費ヲ増加スルニ妨グ

は 民力ノ疲弊ニ伴ヒ納稅力應募力ヲ弱ム

不換紙幣濫發ノ害毒ハ貨幣需要ノ増加ニ因ルカ若クハ紙幣銷却ノ方法ニ訴フ  
ルノ外善後策ナキモ前者ハ事實ニ於テ之ヲ望ムコト難ク後者ハ一時金融ヲ引  
締ムルニ因リ從來勃興セシ諸種ノ事業中道ニ挫折シテ市場ノ溢滞ヲ來セ下民  
ハ職ニ離レテ益困憊ヲ重テ上流社會ハ奢侈ニ馴致セルノ餘又非常ノ苦厄ヲ受  
ケスンハアラス此ノ如ク不換紙幣濫發ノ害毒ハ大ニシテ且ツ之カ救正ニ難キ  
ヲ以テ此カ濫發ヲ慎ムベキコト論ナク若シ之ヲ發行セサルヘカラサル時期ニ  
際會セハ宜シク金融市場ノ狀況ヲ觀察シテ正貨ト紙幣ノ間ノ權衡ヲ失ハサラ  
シコドヲ力オ一方ニハ又外國貿易ヲ順進ヲ精査シテ外國爲替ノ逆戻又ハ順進  
ニ伴ヒテ紙幣ノ流通高ヲ緊張スル等金紙平分法ト外國爲替平分法トヲ併セ照  
應シテ内國ニ流通スル正貨ト紙幣ト額ト間ニ平均ヲ保持スルコトヲ要  
ス英國等ニ於テ不換紙幣ノ害毒比較の少カリシモ普佛戰後ノ佛蘭西ノ財政ノ

偉功ヲ奏セシモ共ニ金融界ノ狀況ニ通曉セル銀行ノ經理ニ任シタルコト又其

二因タルコト明カナリトス

我邦維新以後ノ貨幣ノ變遷ニ付テ見ルモ明治元年政府カ太政官札ヲ發行セ  
シ當時ハ人民未タ之ニ馴レタルト政府ハ信用未タ薄弱ナリトシ因リ流通  
額ハ困難ヲ極メ或ハ紙幣ヲ以テ納稅スベキコトヲ命ジ或ハ紙幣ノ相場ヲ立  
テ或ハ正金ノ引替ニ打歩ヲ取ル者ヲ罰スル等訓告勸誘至ラザル所ナカリシ  
カ當時紙幣ノ價格低落シ流通ノ困難ナリシハ發行額ノ過多ナルニアラス  
シ信用ノ薄弱ナルニ基因セテ以テ信用ノ朝野ヲ通シテ發達スルト共ニ太  
政官札ハ一般ニ流通シ途ニ正貨ニ對シ打歩ヲ生スルニ至レリ然レトモ一方  
ニハ舊札ノ交換藏入ノ填補其他十年ノ後ノ爲メ年年増發ノ必要ヲ生シ明治  
十一年末ノ新紙幣ノ流通高ハ一億千九百八十萬餘圓ニ上リタリ而シテ政府  
ハ一方ニハ紙幣増發ニ伴フ輸入ノ超過正貨ノ流出ヲ以テ通貨ノ缺乏金融ノ  
逼迫ニ因リテ内國生産業ノ不振ナルニ在リトシ政府紙幣整理ノ爲メ設立セ  
ラレシ國立銀行ヲシテ公債ヲ抵當トシテ紙幣ノ發行ヲ許シ又從來正貨ト交

換スヘキ銀行紙幣ヲ政府紙幣ト交換シ得ルコトトシ不換紙幣發行ノ制ヲ立  
 タシヨリ國立銀行ハ十年ヨリ十三年マデニ三千五百萬圓ニ近キ紙幣ヲ發行  
 スルニ至レリ之ニ二千萬圓ノ豫備紙幣ノ流通高ク合算スレバ一億七千萬圓  
 ノ紙幣ヲ見ルニ至リシヲ以テ紙幣ノ銀貨相場ハ明治十年ヨリ漸次下落シ十  
 四年四月ニハ一圓七十九錢五厘ニ上リタリ當時政府已ニ當初ノ謬見ヲ自覺  
 シ十一年以來大ニ紙幣整理ノ事ニ注意シ十三年後酒造稅ヲ改正シ地方稅支  
 辨ノ費目ヲ増加シ諸官省ノ經費ヲ節減シ金札引換證書條例ヲ改正シ紙幣ノ  
 償却ト正貨ノ貯蓄ニ勉メ中央銀行ヲ設立國立銀行條例ヲ改正ト爲リ遂ニ十  
 八年ニ至リ銀紙ノ價格平分シ紙幣ハ減少シテ八千八百餘萬圓ト爲リ兌換紙  
 幣ノ制度ヲ確定シ國立銀行紙幣モ昨年十二月九日ヲ以テ通用期限ヲ滿了ス  
 ルニ至リタリ即チ我國ニ在リテモ不換紙幣ハ一時五割五分ニ下落セシモ其  
 總額ノ僅少ナリトシ直ニ之ニカ整理ニ從事セシヲ以テ害毒ヲ避シテ其  
 トナカトシハ我國ノ至幸ト謂フヘシ彼ノ藩札引換其他十年ノ役等ノ爲メ紙  
 幣ノ増發ヲシハ不可ナキノミナラズ若クハ明治九年ノ國立銀行條例ノ改正

ナク紙幣整理ノ方針ヲ一貫スレバ十年以後銀紙ニ付キ殆ト差異ヲ見ルコト  
 ニナクシテ結了セシヤモ知ルヘカラス不換紙幣ノ害毒ヲ生シ易ク而モ不換紙  
 幣其モノハ國家事變ニ際スル財政上特殊ノ方策タルコト復タ言フ俟タザル  
 ナリ

第二款 任意公債

第一項 愛國公債

愛國公債ハ又勸誘國債ト稱シ國民ノ愛國心ニ訴ヘ政府ニ利益多キ條件ヲ以テ  
 募集スルモノニシテ強制公債ノ如ク國家命令權ノ作用ニ出ラルニアラスシテ  
 唯國民ノ感情ニ訴ヘテ勸誘スルニ過キス故ニ一部少數ノ人民ヲ義捐ニ浴スル  
 コトヲ得ヘキモ到底政府所要ノ巨額ノ資金ヲ愛國公債ニ依リテ求メシコトハ  
 不能ノ事理ニ屬スルモノナリ要スルニ愛國公債ナルモノハ公債ノ一分額トシ  
 テ看ルヘキ價值ナキモノニシテ唯政府ノ勸誘行為ヲ附帶スルコトトシ一般ニ其  
 利子ノ低キコトト内國債ニ限ラルルコトヲ常ト爲スヲ極度トシ而モ通常ノ公

債ニシテ愛國公債ヨリ低利ナルモノアルヘク政府積極ニ勸誘セザルモ軍事公債等ニハ實質ニ於テ國民ノ愛國心ハ比較的低位ヲ以テ巨額ノ募集ニ應ズルコトアリ

之ヲ要スルニ國民ハ一般ニ愛國ノ情ヲ缺クコトナキハ疑ヲ容レサルト同時ニ其愛國ノ情カ又自愛ノ情ニ比シテハ到底數歩ヲ輸スヘキヨモ亦明カナリ方今財政ノ發達ト共ニ一國ノ金融市場ヲ擾亂スルコトナク資本ヲ外國ヨリ輸入シテ其臨時ノ需要ヲ充タシ後徐徐トシテ之カ償却ヲ計ルノ方便ヲ有スルノ際内國市場ヨリ巨額ノ資金ヲ吸收スルハ又策ノ得タルモノト謂フヘカラス愛國公債ノ利益ハ其利子ノ低キニ在リト云ハンカ政府ノ利スル所ハ債權者ノ損失ナリ一國ノ富ニ於テハ其間ニ寸毫ノ軒輊ナキト共ニ爲メニ金融市場ヲ動搖シ人心ニ不快ノ念ヲ抱カレムル損失ニ比スレハ又以テ之ヲ償フニ足ラサルナキヲ保セス況ヤ愛國公債其モノカ古來各國ニ於テ之カ失敗ヲ事實ニ於テ證明スルニ於テヤ

政府公債ヲ起スノ必要急迫ナル時ハ其見界生ズニ急務ノ負擔亦益々重カク

ニキ時ニシテ政府カ國民ノ愛國心ニ訴ヘ低利ノ公債ヲ起サントスル時ハ通常ノ方法ニ依ルトキハ非常ノ高利ヲ支拂ハヌルヲ得タル時ナリ佛蘭西ノ千八百三十年千八百四十八年ノ革命ノ際共ニ國家ノ事態頗ル急ニシテ國民ノ愛國心最モ熾ナリシ時ナリ佛蘭西政府ハ國民ノ愛國心ニ訴ヘテ此際國民ハ私利ヲ捨テテ政府ヲ助クヘシ政府ヲ助ケルハ偶以テ自ラ助ケル所以ニシテ公共ノ秩序恢復セラレ凡百ノ事業勃興スルニ至ルヘキ旨ヲ鼓吹セシニ共ニ奏功スルコトナク千八百三十一年ノ際ハ五分利附平價ノ募集ニ對シテ僅ニ二千四百三十三萬餘法ヲ得ルニ過キカリキ當時國內ノ富有者間ニハ殊ニ政府ノ人望厚キヲ加ヘ一般ノ愛國心又大ニ挑撥セラレタル際ニ拘ラス猶ホ此ノ如キ狀況ヲ呈シ千八百四十八年ノ交ニ在リテハ五分利附平價ヲ以テ募集額一億法ニ對シ應募額僅ニ二千六百餘萬法ニ止マリ其他伊太利諸國ニ於テ施行セラレシ愛國公債モ亦之ト同一ノ失敗ヲ以テ了リタリ

第二項 契約公債

契約公債トハ政府カ定期中又ハ無定期ニ支拂又ハ支給ヲ約束スルモノニシテ  
 特定人ニ對スル場合ト不特定人ニ對スル場合トアリ再分シテ支給又ハ支拂約  
 束及ヒ特別借入ノ二ト爲ス。第一、  
 支給又ハ支拂約束ニシテ特定人ニ對スル場合ハ彼ノ私人ニ若干年間若クハ或  
 事故ノ存在又ハ不在中ニ限り與フル補給金恩給金等ニシテ通常支給約束ト謂  
 ヒ不特定人ニ對スル場合ハ政府發行ノ兌換若クハ不換紙幣ニシテ通常支拂約  
 束ト謂フ後者中不換紙幣ニ屬スヘキモノハ前款間接強制公債ニ於テ之ヲ詳述  
 セリ兌換紙幣ニ付テハ次節流動公債中財政上ノ公債ノ下ニ於テ之ヲ述フヘク  
 又前者中恩給其他ノ支給約束ハ同シク次節流動公債中行政上ノ公債ノ處ニ於  
 テ之ヲ述フヘク茲ニハ主トシテ前者中通常補給金ト稱スルモノヲ一言スヘシ  
 補給金ハ通常政府カ或會社或ハ地方ノ共同體ニ對シテ補助金ヲ與フルコトヲ  
 約束スルカ若クハ行政上ノ處分ニ由リテ政府カ私立會社ノ會計及ヒ管理ヲ擔  
 當スルニ因リテ生スルモノニシテ契約ニ因リテ生スル給與金ハ人民ノ負擔上  
 ニ於テハ恰モ政府カ年金ヲ起シテ事業ヲ企圖シ之ニ對シ年賦ヲ支拂フニ異ナ

ラス其財政上費用ヲ増加スルハ公債ノ増募セルト相異ナルコトナシ蓋シ給與  
 金ヲ與フル多數ノ場合ハ公共ノ利益ヲ目的トスル事業ノ獎勵擴張ヲ期スル場  
 合ニシテ築港運河航海鐵道等ノ如ク經濟上軍事上重要ナル關係ヲ持スルモノ  
 ニ於テ殊ニ然リト爲ス而シテ其補給金ヲ與フル方法ハ大畧分チテ次ノ三種ト  
 爲ス。第一、  
 一 單純ナル補給金  
 二 起業ノ完成ヲ目的トスル補給金  
 三 利子ノ補給金  
 此等ノ補給金ニシテ利子ヲ附スルアリ又ハ附セサルアリ又第三ノ場合ノ如キ  
 利子カ一定ノ額ニ充ツルマテ補給スルト同時ニ一定ノ額ヲ超過セル場合ニハ  
 返還ヲ命スルアリ又此等三種ノ外政府カ株主ト爲リテ巨資ヲ投シ實質上ノ補  
 給ヲ爲ス場合アリ其孰レノ方法ヲ採ルニ拘ラス巨額ノ給與金ヲ要スル場合ニ  
 ハ爲メニ事業公債ヲ起スコト稀ナリトセス而モ其被補給者ニ對シテ契約上法  
 律命令ノ規定ニ依ル場合アリ政府カ債務ヲ負フニ於テハ一ナリトス固ヨリ年

年幾許ノ金額ノ下付ヲ約束スルモノナルカ故ニ公債ト見難キモ負債ナキモ義務ヲ有シ其間ハ年幾許ノ金額ヲ支出セザルヲ得サルヲ以テ其結果公債ヲ募集シタルト異ナルコトナシ彼ノ佛蘭西帝政ノ末ニ際シ鐵道會社ニ八箇年間一兩度宛ニ總額都合二億八千萬圓ヲ支拂フコトヲ約シ其年年ノ支拂額ハ之ヲ臨時歳出ノ部ニ組入レシモ共和政府ニ於テハ舊約ヲ更メテ年額ヲ改メ仕拂完了期間ヲ八十年トシ毎年年利子ノ支拂ヲ約セシヲ以テ臨時歳出ノ補給金モ通常經費ヨリ支拂フ純然タル公債ト爲レリ

民有鐵道會社ニ與フル補給ハ各國其例多ク其額モ亦少シト爲ナス又之ニ伴フ補給元金及ヒ利子ノ返納利益配當等モ其額巨額ニ上ルコトアリ  
千八百八十三年ヨリ同八十四年ニ亘ル年度ニ於テ普爾西カ民有鐵道ノ爲メニ費ス所ハ總計九十萬馬克餘内譯補給利子三十八萬馬克餘而シテ之ニ對シ得ル所ノ收入ハ却テ五百四十二萬馬克ノ多キニ上レリ千八百八十二年奧太利ニテハ民有鐵道ノ助成金經常費六十九萬七千九百九十九圓臨時費千三百九十八萬九千九百九十九圓ニ上リ之ニ對スル收入ハ五百四十八萬八千九百九十九圓ニ上リキ

千八百八十一年佛蘭西ニテハ民有鐵道ノ補給金五千七百萬法餘ニ上リ中利子補給額四千萬法ヲ占ム千八百七十四年ノ豫算ニテハ八十五年マテニ支拂額ヲ拂ヒ盡クシテ全ク補給ヲ止メ爾後會社ノ利益ヨリ補給高ク償戻セシムルノ目的ナリヤモ會社ノ増設補給年限ノ延長ハ相次テ起リ現時有益ナル事業ニ對シ政府代リテ公債ヲ募集シテ資金ヲ供給シ會社モ亦株金ヲ募リ割屬金ヲ拂ヒ株主總會ヲ開クカ如キ煩ヲ避ケテ比較的低位ノ資本ヲ得ルノ法ヲ採ルコト多シト爲ス

航海ノ獎勵ニ至リテハ或ハ船舶ニ或ハ航路ニ其給與スル補給金英國ノ如キ頗ル巨額ニ上リ佛埃露獨等近時又大ニ獎勵ノ方策ヲ進メ我邦ノ如キモ二十年三月法律第十五號及ヒ第十六號ヲ以テ航海獎勵法及ヒ造船獎勵法ヲ發布セシハ世人ノ知ル所ナリ

其補給金ニ關スル管理ノ方法ニハ常該官衙ニ於テ別ニ管理スルト並テ之ヲ國庫ノ下ニ總括シテ管理スルトノ別アリ後者ハ佛國ノ執ル所ナレトモ故ナク中央國庫ノ負擔ヲ増シ時間ト手數ヲ要スルコト大ナルヲ以テ一般ニ執ラ



ナル所ナリト云フ。然レ借入ノ手續ハ、  
 特別借入トハ、銀行其他ノ特定人ヨリ契約ニ因リ借入ルモノニシテ、通常私人  
 間ニ於ケル貸借關係ト其性質相似タリ但シ場合ニ依リテハ、利子ヲ附セズルコ  
 トアリ各國通例中央銀行ニ對シテ借入ルルヲ例ト爲シ其借入ノ方法ニ至リテ  
 ハ或ハ交互計算ニ依ルアリ爲替ニ依ルアリ擔保ヲ附スルハ現時殆ト稀ニ見  
 所ニシテ唯直接間接ニ銀行ニ特權其他ノ利益ヲ付與スルコト多ク其最モ生  
 易ク且ツ弊害大ナルハ其貸出銀行ニ紙幣ノ發行權ヲ許シ又ハ其權限ヲ擴張ス  
 ルニ在リ蓋シ特別借入ノ高多キニ上ルトキハ銀行ハ勢ヒ之ニ應スルカ爲メ市  
 場ノ通貨ヲ吸收シ物價ノ下落金融ノ逼迫ヲ來スヲ以テ少クシテモ其借入當時  
 於テ流通貨幣ノ不足ヲ告グルヲ例トス隨テ巨額ノ借入ハ間接ニ不換紙幣濫發  
 ノ導火ト爲ルヘキモノニシテ露國政府カ信用ノ薄弱ナルヨリ公債ノ募集ヲ爲  
 スコト克ハス盛ニ中央銀行ヨリ借入ヲ爲セシ時又等シク此失敗ヲ招キタリ蓋  
 シ借入ノ性質タルニ毫モ非難ヲ容ルヘキモノニアラサルニ其借入ノ條件ノ寬  
 嚴之ニ伴フ間接ノ利害ハ當路者ノ大ニ注意スヘキ點ナリ彼ノ我政府カ明治

十年ノ役ニ第十五銀行ヨリ征討費トシテ一千五百萬圓ヲ借入レシ場合ノ如キ  
 其擔置期限ヲ銀行ノ營業期間ト爲セシカ如キ長期間ノ高利ノ支拂ヲ約束セシ  
 モノニシテ借入ノ條件ニ於テハ成功セルモノト謂フヘカラサルモノナリ

### 第三項 通常公債

通常公債又商業的公債ト云フハ多クノ著書ニ於テ所謂任意國債ト稱セラルル  
 モノナリ余カ任意公債ト下ニ愛國公債契約公債通常公債ト分類セシハ單ニ字  
 句ノ末ニ付テ爭テニハアラヌ此三種ヲ總稱シテ廣義ノ契約公債ト稱スルモ亦  
 可ナリ三種共ニ應募者カ國家命令權ノ作用ニ由リテ強制セララルコトナク各  
 自自由意思ヲ以テ政府ト締結シタル契約ニ依ル公債タルニ於テ一タレハナリ  
 唯特ニ政府ノ勸誘ニ基クモノト政府ノ勸誘ニ基カスジテ或特定人ニ對シテ契  
 約ヲ結ヒシ場合ト不特定人ニ對シテ契約ヲ結ヒシ場合ニ付キ之カ分類ヲ設ケ  
 シニ過キヤルナリ

順序其他各種ノ體様ヲ公布シ不特定人ノ自由意思ニ訴スルモノナリ政府強制力ヲ用フルコトナク勸誘手段ヲ行フコトナク一ニ各個人ノ利己心ニ放任スルモノナリ故ニ其公債ノ成功ノ如何ハ一ニ金融市場ノ狀態政府ノ信用ノ厚薄募集條件ノ體様ノ如何ニ存ス若シ其條件ノ體様カ普通ノ事業ヲ營ム場合ヨリ利益少キトキハ私人ハ其既ニ投下セル資本ハ之ヲ回收スルコトナク又未タ投下セサル資本ハ普通事業ニ吸收サルヘク若シ利益大ナルトキハ浮動ノ資本ヲ吸收スルノミナラス又投下セル資本ヲモ回收スルニ至ルヘキハ言フヲ埃タサルナリ是レ最モ合法ニシテ且ツ公平ナル手段ニシテ現時公債ノ大部分ハ總テ通常公債ニ依リ通例世人ハ公債ナル意義ヲ以テ直チニ通常公債ト爲スニ至レリ其分類批評ハ便宜ノ爲メ之ヲ次節ニ譲リ其募集ノ如何ハ之ヲ公債募集ノ章ニ於テ詳述スル所アルヘシ

### 第五節 流動公債及ニ確定公債

#### 第一款 緒論

## 雜 報

○爲替手形資金ノ受領ト引受 爲替手形ノ支拂人カ手形資金ヲ受取リタルトキハ支拂人ハ手形ヲ引受ケ又ハ支拂ヲ爲スノ義務ヲ負フモノナルカニ付キ大審院ハ判決シテ曰ク爲替手形資金ノ送付ハ事實上支拂ヲ容易ナラシムルノ一原因タルニ相違ナシト雖モ其送付ヲ受ケタルカ爲メ支拂人ハ手形ノ引受ヲ爲ササルヘカラサルノ義務ヲ負擔スルモノニアラス引受ノ諾否ハ一ニ支拂人ノ意思如何ニ因リ定マルモノトス故ニ支拂人ハ資金ノ送付ナキ場合ニ引受ヲ拒絕シ得ルト同シク資金ノ送付ヲ受ケタル場合ト雖モ之ヲ拒絕スルノ自由ヲ有スルモノナレハ資金送付ノ有無ハ引受諾否ノ點ニ付キ法律上影響ヲ有スルモノニアラス是レ蓋シ手形ノ引受ハ其支拂委託ノ受諾ニ過キサレハナリト

(大審院明治三十五年(第)第三百四十六號手形金價還請) 二月二十五日  
 (民事事件明治三十五年十月二十三日第一民事部判決) 二月二十五日

○辯護士試験及第者 本校校友ニシテ本年施行ノ辯護士試験ニ合格セラレタル者左ノ如シ

神居 齋太郎

山田 俊平

矢部 安男

中西 由之助

土屋 忠夫

○第二級特別試驗問題 本校ニ於テ去ル十一月十七日ヨリ同二十五日マ  
ラニ施行シ了リタル第二級特別試驗問題左ノ如シ

民法第三編 第一章 (荒井學士)

- 一 債權者ハ如何ナル場合ニ於テ遲滞ノ責ニ任スヘキヤ及ビ其遲滞ノ責ニ任シタル效果如何
- 二 遲滞債務ト遲滞保護保護人ト主ナル債權者ト遲滞シテ債務ヲ履修シタル場合トノ間ニ於ケル差異ヲ説明セヨ

民法第三編 第二章 第一節 (川名學士)

- 一 第三者ノ爲メニスル契約ハ其第三者者契約ノ利益ヲ享受セザル意思ヲ表示シタルキハ如何ナル效力ヲ有スルヤ
- 二 甲者、乙者ヲ教唆シ丙者ノ所有物ヲ毀損セシメヨリ甲者ハ不法行為ヲ爲シタルモノナルヤ

民法第三編 第二章 第二節 (梅博士)

- 一 他人ノ物ノ質買ノ效力ヲ論セヨ

- 二 甲銀行カ乙ニ對シ金若干圓ヲ貸與スルコトヲ約シ同時ニ乙ハ之ヲ甲銀行ニ預入セルコトヲ約シ實際金錢ヲ授受セ爲サス  
シテ消費貸借ヲ完結セント欲ス知ラス其消費貸借ハ成立スルヤ否キ理由ヲ附シテ答ヘヨ

商法 第一編 (松本學士)

- 一 營業ノ讓渡ノ意義及ビ效力ヲ論スヘシ
- 二 貸借照表ト財産目録トノ異同ヲ詳シ且其記載事項及ビ其記載ノ方法ニ付キ知ル所ヲ述フヘシ

商法 第二編 (志田學士)

- 一 倉庫會社ハ其目的ノ範圍外ノ行為ヲ爲スコトヲ得ルヤ否キ若シ得ルトモハ其總會及ビ行為ノ種類如何
- 二 持分ト株式トノ差異如何

商法 第三編 自第一章 (志田學士)

- 一 仲立ト取次トノ區別如何
- 二 貨物引換證ノ性質ヲ説明スヘシ

商法 第三編 第十章 (粟津學士)

- 一 超過保險ヲ説明シ且民法ニ於ケル之ニ關スル規定ヲ述フヘシ
- 二 損害保險ト生命保險トノ區別如何

刑法 各論 (古賀學士)

- 一 既遂其所存ニ係ル物品ヲ強取シタル者ノ處分如何
- 二 曲庇陪葬ノ目的ニ出アズシテ陪葬シタル者ノ處分如何

民事訴訟法 第一編 (仁井田博士)

- 一 共同訴訟ヲ提起スルニ必要ナル事項ヲ説明スヘシ

二 明日、期日ノ區別ヲ説明スヘシ (岩田學士)

二 請求ノ機運段階ハ既述ヲ終了スルカ (豊高學士)

**刑 事 訴 訟 法** (豊高學士)

二 檢廳ハ證據方法ヲ以テ證據補強ナリヤ理由ヲ付シテ證明スヘシ

二 第一審ニ於テ管轄違ノ申立ヲ爲シ其申立ヲ却下セラルル判決確定シタル場合ニ第一審ノ本案判決ニ對シ總訴ヲ爲シタルト  
\*ハ更ニ第二審ニ於テ同一ノ理由ヲ以テ管轄違ノ申立ヲ爲スヲ得ヘキヤ

**財 政 學** (岡學士)

二 財政學ノ近世ノ趨勢ヲ問フ

二 經費ノ主要ナル分類ヲ示スヘシ

**擬 律 擬 判** (吾孫子學士)

二 英國ニ於テ皇帝陛下、裁置式ヲ舉行セラレンカ爲メ六月一日ヲ以テ宮城ヨリ某寺院 行幸セラレトスルコトアリテ其御  
通路ニ當ル衛路ノ窄直ニ數ハ多額ノ資金ヲ以テ貸借セラレリニ其後該裁置式ハ同月三日ヲ以テ舉行セララルコト爲レ  
リ然ルニ貸與人ノ多數ハ六月一日ニ付キ約定アリタル資金ノ支拂ヲ求メ且更ニ六月三日ニ付キ貸借契約ヲ結ビテ知ラ  
ス貸與人ニ此種刑アリヤ

# 法 學 志 林

自 第 三 號

至 第 廿 五 號

右校友生徒校外生ニ限リ非常減價一冊四錢郵税共第二十一號ニ限リ

六錢トスヲ以テ貴體ニ應ス但殘本有餘ニ限ル

## 破 産 法 案

正 價 金 十 錢

郵 稅 金 二 錢

本ニ發表アレタル破産法案ハ舊法ニ比シレハ大ニ整備セルモノニア  
法ニ反シテ商人非商人ニ共通ノモノトスルノ主義ヲ採リ今般本統ニ  
於テ右成案ヲ編製發行シ校友生徒校外生ニ限リ特價金八錢郵税共ヲ以  
テ販賣ス請フ一本ヲ購讀シテ以テ速ニ改正ノ要旨ヲ知レ

十 二 月

和 佛 法 律 學 校

二期日、期間トノ區別ヲ説明スヘシ

民事訴訟法第二編 (岩田學士)

一 請求ノ拋棄認許ハ既決ヲ終了スルカ

二 民事訴訟ニ於テ如何ナル人ハ假入タルノ能力ヲ有スルカ

刑事訴訟法 (豊高學士)

一 檢査ハ覆査方法ナリ、將々覆査調ナリヤ理由ヲ付シテ證明スヘシ

二 第一審ニ於テ管轄過ノ申立ヲ爲シ其申立ヲ却下シタル判決確定シタル場合ニ第一審ノ本案判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルトキハ更ニ第二審ノ於テ同一ノ理由ヲ以テ管轄過ノ申立ヲ爲スナ得ヘキヤ

財政學 (岡學士)

一 財政學ノ近世ノ趨勢ヲ問フ

二 經費ノ主要ナル分類ヲ示スヘシ

擬律擬判 (吾孫子學士)

英國ニ於テ皇帝陛下ノ親冠式ヲ舉行セラレンカ爲メ六月一日ヲ以テ宣讀スリ某寺院ニ行幸セラレントスルコトアリテ其御

通路ニ當リ衛路ノ宗社ニ燃ハ多額ノ寶金ヲ以テ賈借セラレタリシニ其後該儀式ハ同月三日ヲ以テ舉行セララルコトト爲レ

リ然ルニ寶賈人ノ多數ハ六月一日ニ付キ約定アリタル寶金ヲ支拂ヲ求メ且更ニ六月三日ニ付キ寶賈借契約ヲ結ヒタリ知ラ

ス寶賈人ニ此權利アリヤ

法學志林

自第三號

至第廿五號

右校友生徒校外生ニ限リ非常減價一冊四錢郵稅共第二十一號ニ限リ

六錢トスヲ以テ費需ニ應ス但殘本有高ニ限ル

破產法案

正價金十錢

郵稅金二錢

舊ニ發表ナレタル破產法案ハ舊法ニ比スレハ大ニ整備セルモノニテ舊法ニ反シテ商人非商人ニ共通ノモノトスルノ主義ヲ採レリ今般本校ニ於テ右成案ヲ翻刻發行シ校友生徒校外生ニ限リ特價金八錢郵稅共ヲ以テ販賣ス請フ一本ヲ購讀シテ以テ速ニ改正ノ要旨ヲ知レ

十二月

和佛法律學校

每月一、四、十五、廿五日發行  
校友、生徒、校外生三限、  
一册每部銀共金九錢、  
十册前金郵稅共金八十錢

### 第三十七號

十一月十五日發行

○最近判例批評 法律博士 梅謙次郎  
○刑事事件ノ異現象 辯護士 信岡雄四郎

### 志林

○閣領東印度ノ財政一斑 法律博士 岡實  
○我國ノ歲入 法律博士 若槻禮次郎

### 纂論

○取引所(續) 海山獵夫

○豫審處分ノ囑託 法律博士 鶴見守義

### 解疑

○戶主タル私生子ノ認知 法律博士 鶴丈一郎

○交互計算ノ商行爲上ノ所屬 法律博士 松本丞治

○鎖業權ノ性質 法律博士 鈴木英太郎

其他 判例、雜報、記事 數十件

## 發行所 和佛法律學校

(明治二十二年十二月九日內務省許可)

(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可) 每月十八日、廿五日、廿八日、九日、卅日發行

(電話番町百七十四番)

明治三十五年十二月七日印刷  
明治三十五年十二月八日發行

(定價金貳拾五錢)

東京市牛込區牛込北町十番地

編輯兼發行者 萩原敬之

東京市牛込區矢來町三番地

印刷者 小宮山信好

東京市芝區四ノ久保明舟町一番地

印刷所 金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)